

第1学年

教養系教育・基礎科学教育科目

美術	29
心理学概論	31
臨床心理学	32
医療倫理学	33
アカデミック・リテラシー	34
経営学	36
郡山学/福島学	37
基礎物理学	38
物理学実験	40
基礎化学	41
化学実験	43
基礎生物学	44
生物学	46
生物学実験	49
体育	50
統計数学	51
情報リテラシー I	52
英語 I	53
英会話	54
歯科医療概論	55
基礎歯学概論	56
臨床歯学概論	58
歯科医学演習	59
歯科医療人間学 I	60

美術

科目責任者：天形 健（非常勤講師）

担当教員：天形 健（非常勤講師）

1. 科目の概要

「美術」は過去から未来への文化の伝承を担う営みであり、造形的な表現と鑑賞を通じたビジュアルコミュニケーションを展開する世界である。私たちの身の回りには、絵画や彫刻などの「芸術」といわれる作品のほか、色や形に表された多様な造形環境がある。「美術」の授業では、講義や表現活動を通して、そのような文化活動について理解し、造形的な活動が生み出す生活環境の豊かさや精神的な潤いについて考察する。

表現体験では、これまでの経験により習得した知識や感性を活かして表現し、自らの表現意図が他者に伝わる伝達性を味わい、改めて造形作品の価値や評価とは何かを考察する。

表現者は、情報の発信者として他者理解を深め、共感を期待する他者への思いやりから発想し、構想することが大切である。「美術」は表現の意図や主題を他者に伝えようとする伝達性を学ぶ授業でもある。

また、表現体験の中で、色や形についての基本的な実習を行い、造形的な表現活動の楽しさを味わうとともに文化に対する広い見識と造形表現に関する理解の深まりをねらいとした学習活動を行う。

鑑賞体験は、ヨーロッパの主な美術館の収蔵作品や文化史的作品を紹介するとともに、作品を見る視点を歴史的、社会的、また作家の肉体的な視点に分けて鑑賞し、造形文化史についての理解を深めることをねらいとする。

2. 一般目標

造形表現の意味や価値について学び、美術への興味・関心・理解を深めるとともに、文化的・精神的な豊かさについて考察する。

3. 到達目標

- 1) 造形表現に関心を持ち、それらを通じた学びの意味を考え、意義深い学習活動を構築することができる。
- 2) 造形的要素を用いた表現を体験し、日常生活や生涯学習に活用できる文化価値を理解することができる。
- 3) 学習活動から得られた認識力、表現技術力により、知性的・感性的人格の実現を目指すことができる。
- 4) ものやことに触れ、描画センス、配色の調和感覚、手の巧緻性を高めることができる。
- 5) 授業準備、計画実施、学習意欲等について、多面的に自らの姿勢を振り返り、自己改善することができる。
- 6) 情報や資料の収集に努め、主体的に授業参加することができる。
- 7) 文化の伝承や民族性について理解し、人々の営みと文化の多様性、芸術活動について理解することができる。
- 8) 美術史学習から造形的な文化について洞察を深め、「美」を求めてきた意義について考察することができる。
- 9) 表現活動を通して、条件や状況に合わせて発想したり企画したりすることができる。

4. 講義形態

[準備物] クロッキーブック、水彩絵の具（12色）、パレット（タマゴパック代用）、彫刻刀

映像やプリント、板書による講義、紙材や石材などを用いた表現実習を行う。表現活動では、主題を具体的に表すための発想力や構想力が求められる。授業進度に合わせた学習ベースを考え、主体的に授業参加することが望まれる。

5. 時間外学習

予習：文化的な情報に関心を持ち、批評力や価値意識を高め豊かな表現／言語活動を行う準備をする。（60分）

復習：クロッキーブックの描画や作品を自己評価し、発想から完成に至る学習活動を省察する。（60分）

その他：手の巧緻性や集中力、人間関係力などの自己評価に基づき、学習姿勢や自己管理について考える。

6. 評価方法

提出された作品（40%）、定期筆記試験（40%）、出席および授業態度・貢献度（20%）により評価し、65点以上を合格とする。

提出作品については、主題のとらえ方・表現技術などの作品の質のほか、資料収集力、表現の丁寧さなど、授業への積極性・関心意欲なども加味した評価を行う。作品評価のために、クロッキーブック（CB）を定められた期日に提出する。筆記試験は、講義内容や配付資料および表現体験に関する理解について、主に授業内容から出題する。

7. 教科書

特に指定しない。授業資料等は、必要に応じて各単元毎にプリント資料の配布、データ提示を行う。

8. 参考書

参考となる文献や資料については授業の中で紹介する。

9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
1		オリエンテーション		
2	4月15日	作品鑑賞① 人類史と文化史	人類の進化と造形表現の変化「文化/美術とは何か」「空間の認識という視点による鑑賞」 (鉛筆・SB)	天形 健
3	4月22日	作品鑑賞② ルネサンス期概観	作家の人物相関と時代背景「大航海時代とルネサンス」「ダ・ビンチとミケランジェロ」 (〃)	〃
4	5月6日	表現体験(1) 「描画」	線による表現[基本形①] (〃)	〃
5	5月13日	〃	線による表現[基本形②] (〃)	〃
6	5月20日	〃	線による表現[透視図法①] (〃)	〃
7	5月27日	〃	線による表現[透視図法②] (〃)	〃
8	6月3日	〃	線による表現[人物①] (〃)	〃
9	6月6日	〃	線による表現[人物②] (〃)	〃
10	6月10日	色の性質と混色	ヒトの視覚と虹色、色の性質 (〃)	〃
11	6月17日	表現体験(2) 「色彩」	色彩の表現力 (水彩絵の具一式)	〃
12	6月24日	〃	感覚を色で表す「四季」① (〃)	〃
13	7月1日	〃	感覚を色で表す「四季」② (〃)	〃
14	7月8日	〃	感覚を色で表す「四季」③、学生作品鑑賞(〃)	〃
15	7月15日	作品鑑賞③	国立人類学博物館(メキシコ)、イスラムの美術(モロッコ)	〃
16	9月2日	作品鑑賞④	美術館を訪ねて(1) 「ルーブル、オルセー、オランジュリ」(鉛筆・CB)	〃

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
17	9月9日	表現体験(3) 「ゾートロープ」	アニメーションの原理 (水彩orサインペン)	天形 健
18	9月16日	〃	徐々に変化する形とエンドレスの発想 (〃)	〃
19	9月23日	〃	動きを推察したコマ配分と描画 (〃)	〃
20	9月30日	〃	伝統的なゾートロープの組み立てと鑑賞(〃)	〃
21	10月7日	表現体験(4) 「篆刻」	寿山石による蔵書印の制作 (鉛筆・CB・彫刻刀)	〃
22	10月14日	〃	基本字体と配置 (〃)	〃
23	10月21日	〃	反転写と彫刻 (〃)	〃
24	10月28日	〃	グリップのデザイン (〃)	〃
25	11月4日	〃	グリップの彫刻 (〃)	〃
26	11月11日	表現体験(5) 「インテリアデザイン」	「診察室と待合室」のデザイン (鉛筆・CB・水彩)	〃
27	11月18日	〃	「診察室と待合室」の配置と配色 (〃)	〃
28	11月25日	〃	「診察室と待合室」のイメージデザイン (〃)	〃
29	12月2日	作品鑑賞⑤	美術館を訪ねて(2) 「英国ナショナル、コートールド、テート、大 塚博物館他」 (鉛筆・CB)	〃
30	12月9日	作品鑑賞⑥	美術館を訪ねて(3)「エルミタージュ、プーシ キン、トレチャコフ他」 (〃)	〃

心理学概論

科目責任者：車田 文雄

担当教員：車田 文雄，鈴木 敏城

1. 科目の概要

心理学はその対象となる人間存在の複雑さや曖昧さ，多様性をそのまま引き受けざるを得ず，一義的・一般的知見を抽出しにくいという学問でもある。本講義では心理学の基本的な立場を通して，人間理解の特性を学習する。また歯科医療との摺り合わせを鑑み，臨床心理学を大きく取り上げ，臨床家として他者を理解・援助するにあたっての心理学的な手がかりや方法を探る。そして心理テスト等を通し，自己理解が他者理解・援助と相即することを学ぶ。

2. 一般目標

まず，心理学の代表的な理論や人間理解の方法について説明するために，心の探究の歴史を理解する。続いて，病人の心理ならびにその援助法にあたり，医療従事者として配慮すべきことを考えるために臨床心理学を習得する。

3. 到達目標

- 1) 現代における心の問題を述べられる。
- 2) 心理学の基本的な立場を説明できる。
- 3) 性格を分類できる。
- 4) 歯科口腔外科領域における心身症を説明できる。
- 5) 心の援助（事例読解）を実施できる。

4. 講義形態

本科目の歴史を概観することで心理学の学問的特性を把握し，臨床領域に焦点をあて，他者援助における心理学の実践的・具体的な活用を見る。またレポート等の課題を通し，できるだけ個別に指導する。

5. 時間外学習

予習：シラバスにて次回講義内容箇所を確認し，予め教科書を熟読しておくこと。(30分)

復習：板書された重要箇所をノートで確認し質問等有れば積極的にオフィスアワーを利用すること。(30分)

その他：

6. 評価方法

定期試験および追再試験結果70%，出席および授業態度・貢献度（30%）を評価し，65点以上を合格とする。

7. 教科書

人と心の科学 一人間理解と援助の心理学一，八千代出版

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ:)，出題基準記号(国:)	
1		オリエンテーション		
2	4月12日	オリエンテーション	講義の主題と進行について コ： 国：必修17-イ	車田 文雄
3	4月19日	現代における心の問題①	虐待といじめ コ： 国：必修17-イ	〃
4	4月26日	現代における心の問題②	嗜癪問題 コ： 国：必修17-イ	〃
5	5月9日	現代における心の問題③	アダルトチルドレン コ： 国：必修17-イ	〃
6	5月10日	心理学の基本的な立場①	行動療法および認知療法 コ： 国：必修17-イ，総論X-10-ク	鈴木 敏城
7	5月17日	心理学の基本的な立場②	認知行動療法 コ： 国：必修17-イ，総論X-10-ク	〃
8	5月24日	臨床心理学入門①	精神医学と主な精神疾患 コ：E-4-5)-① 国：必修17-イ	〃
9	5月31日	臨床心理学入門②	心因性疾患と心療歯科 コ：E-4-5)-②，⑤ 国：必修17-イ	車田 文雄
10	6月7日	心の発達①	幼年期の発達課題と危機 コ： 国：必修17-イ	鈴木 敏城
11	6月14日	心の発達②	青年期の発達課題と危機 コ： 国：必修17-イ	〃
12	6月21日	心の発達③	成人期および高齢期の危機 コ： 国：必修17-イ	車田 文雄
13	6月28日	性格とその把握①	性格の分類と測定法 コ： 国：必修10-ケ-a，17-イ	〃
14	7月5日	性格とその把握②	エゴグラムの活用 コ： 国：必修10-ケ-a，17-イ	〃
15	7月12日	心の援助の実際	事例読解 コ： 国：必修17-イ	〃

臨床心理学

科目責任者：鈴木 敏城

担当教員：鈴木 敏城

1. 科目の概要

臨床心理学とは、様々な心の障害を乗り越えようとする人間を、心理学的に支援する学問である。この支援のためには、人間存在が持つ様々な悩みの深さや悩みに陥る心の構造と心理的プロセスを学んでいく必要がある。

単なるカウンセリングに留まらず、多岐に渡る心理臨床の理論と方法を多くの具体的な事例を通して学び、悩む者の心を支えるには、どのような態度で接することが必要かを考えていく。

また、医療に従事する者として、患者の心の痛みや感情、悩みに気付き、かけがえのない人間存在としての患者の尊厳を大切にすることを学ぶ。更に、他者を心理的に支えるための前提として、学習者は自己の心の状態に気付いていく必要がある。従って、自己の性格特性や悩み、人間関係の葛藤の解決法についても考えていく。

2. 一般目標

臨床心理学の基礎を学び、人間が人間を心理的に支援することの意味を理解する。

臨床心理学の対象となる症例を学び、医療者として患者を尊重することの重要性を理解する。

臨床心理学から学んだ知識を生かし、自己のパーソナリティ特性を理解する。

3. 到達目標

- 1) 人生における様々な悩みや障害、葛藤に気付き、心理的援助の重要性にも気付くことができる。
- 2) 医療者として、患者の心理的葛藤に気付き、患者を心理的に支えることの重要性にも気付くことができる。
- 3) 自らの心理的な問題に気付き、人生を自らの意志で切り開いていくことの重要性にも気付くことができる。
- 4) 臨床心理学を学ぶことで、自他の区別なく命の大切さに気付き、人間の尊厳にも気付くことができる。

4. 講義形態

毎回、講義テーマに沿ったプリントを用意する。プリントには重要事項がまとめられているが、授業者はより具体的な説明を行う。学生はプリントに沿って重要事項を考え、整理するとともに、授業者の具体的な説明を各自の問題として考える。

5. 時間外学習

予習：次時のテーマについて、自分であればどのように対応するかを具体的に考えておく。(30分)

復習：講義テーマが自分とどのように関連するかを具体的に整理する。(30分)

その他：

6. 評価方法

定期試験70%、出席および授業態度・貢献度(30%)を評価し、65点以上を合格とする。

7. 教科書

使用せず(毎回プリントを配布する)。

8. 参考書

特定のものを使用せず(必要な場合は随時紹介する)。

9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：), 出題基準記号(国：)	
1	9月6日	ストレスとは何か	ストレッサーとストレス反応, ストレスコーピング コ：E-4-5)-① 国：必修17-イ	鈴木 敏城
2	9月13日	うつ病の予防	うつ病の心理特性と対応及び予防 コ：E-4-5)-① 国：必修17-イ	〃
3	9月20日	自殺の予防	自殺の心理特性と対応及び予防	〃
4	9月27日	自傷行為の予防	自傷行為の心理特性と対応及び予防	〃
5	10月4日	統合失調症	統合失調症の症状と対応 コ：E-4-5)-① 国：必修17-イ	〃
6	10月11日	依存症	依存症の分類と心理特性 コ：E-4-5)-① 国：必修17-イ	〃
7	10月18日	パニック障害	パニック障害の心理特性と対応 コ：E-4-5)-① 国：必修17-イ	〃
8	10月25日	摂食障害	摂食障害の心理特性と対応 コ：E-4-5)-① 国：必修17-イ	〃
9	11月1日	不安障害	不安障害の心理特性と対応 コ：E-4-5)-① 国：必修17-イ	〃
10	11月8日	心身症と歯科心身症	心身症の心理特性と不安障害との相違 コ：E-4-5)-① 国：必修17-イ	〃
11	11月15日	パーソナリティ障害	パーソナリティ障害の分類及び心理特性と対応 コ：E-4-5)-① 国：必修17-イ	〃
12	11月22日	発達障害	発達障害の分類及び心理特性と対応 コ：E-4-5)-① 国：必修17-イ	〃
13	11月29日	災害心理学	災害を含めた危機状況での心理特性と対応	〃
14	12月6日	カウンセリング心理学	カウンセリングの理論と方法 コ：E-4-5)-① 国：必修17-イ	〃
15	12月13日	まとめ	全体を振り返りポイントを整理する	〃

医療倫理学

科目責任者：車田 文雄

担当教員：車田 文雄

1. 科目の概要

医療倫理学は、医師・歯科医師など、医療の担い手と患者との間を調整するためのルールの学問であり、またその基盤となる人間の道徳的・倫理的・法的規範についての意識を養うことを目的とした学問である。その必要性は、医療はどんな場合でも患者の立場を重んじ、患者との信頼関係の中で行わなければならないからである。医療はそもそもの始まりから「倫理」すなわち「人間同士がお互い相手のことを考えて自分を律するルール」と一体となり行われてきたため、倫理と切り離しては成立しない。講義の各単元は相互に密接に関連しており、独立したものではないため、単なる暗記物ではあってはならず、問題意識を持ちながら臨み学ぶことが大切である。

2. 一般目標

医療倫理の必要性、すなわち医療行為の特殊性からみて、歯科医師にはその職に固有かつ道徳的な規範と自律倫理が求められることを理解し、全ての医療従事者の職業上の義務と社会における医療のあり方について検討し、問題解決のための具体的指針を習得する。

3. 到達目標

- 1) 医療倫理とは何かについて説明できる。
- 2) 倫理学について概説できる。
- 3) 医療倫理に関する規範とバイオエシックス（生命倫理）について説明できる。
- 4) 現代医療の倫理問題について説明できる。
- 5) 臨床現場で直面する倫理的問題を説明できる。

4. 講義形態

- 1) 板書およびスライド（レジュメ）の講義を行うので講義ノートを作る。
- 2) 講義単元により問題演習を行う。（評価対象外）
- 3) 各単元毎に要点をまとめるので、確認して知識の整理を行い、学力の向上につなげる。

5. 時間外学習

予習：新聞等から医療倫理に関わる情報を取得しておく。（30分）

復習：講義内容の板書のカラー文字およびスライドにて強調された部分を復習しておくこと。（30分）

その他：

6. 評価方法

定期試験および追再試験結果70%，出席および授業態度・貢献度（30%）を評価し、65点以上を合格とする。

7. 教科書

なし

8. 参考書

[Ethical Questions in Dentistry]

9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ:), 出題基準記号(国:)	
1	9月7日	なぜ医療倫理学を学ぶか	医療倫理概論, 歯科医師に求められる医療倫理 コ: 国: 必修17-イ	車田 文雄
2	9月14日	倫理学とは何か(1)	倫理の原理・倫理的行為の原則 コ: 国: 必修17-イ	〃
3	9月21日	倫理学とは何か(2)	法と倫理の関係・倫理と道徳 コ: 国: 必修17-イ	〃
4	9月28日	生命・医療倫理とは何か(1)	バイオエシックスの誕生 コ: A-2-①②③ 国: 必修1-ア-abc	〃
5	10月5日	生命・医療倫理とは何か(2)	医の倫理との相違・パートナーリズム コ: A-2-①②③ 国: 必修1-ア-abc	〃
6	10月12日	生命・医療倫理とは何か(3)	生命倫理の原則・患者の権利 コ: A-2-①②③ 国: 必修1-ア-abc	〃
7	10月19日	現代医療の倫理問題(1)	告知するための条件・末期患者の苦痛と心理 コ: A-1-①②③ 国: 必修1-イ-abc	〃
8	10月26日	現代医療の倫理問題(2)	脳死と臓器移植 コ: A-1-①②③ 国: 必修1-ア-abc, 15-ホ-b	〃
9	11月2日	生命・医療倫理演習	患者と医療専門職 コ: A-2-③ 国: 必修1-ア-a, 17-イ	〃
10	11月9日	生命・医療倫理講義	患者と医療専門職 コ: A-1-①②③ 国: 必修1-ア-a, 17-イ	〃
11	11月16日	医療現場で直面する倫理的問題(1)	ケーススタディ・インプラント治療における倫理的問題とその解釈 コ: 国:	〃
12	11月30日	医療現場で直面する倫理的問題(2)	ターミナルケアとランディング コ: A-2-①-③ 国: 必修2-ア, イ	〃
13	12月7日	医療面接(1)	医療面接の目的・基本・流れ コ: A-3-④, A-④-①② 国: 必修8-ア-a ~ c	〃
14	12月14日	医療面接(2)	医療面接の技法 コ: B-2-2)-①②③⑥ 国: 必修8-イ-a~f, ウ-a~f	〃
15	12月21日	総括講義	医療倫理と歯科医師のプロフェッショナルリズム コ: 国:	〃

アカデミック・リテラシー

科目責任者：唐沢 明

担当教員：唐沢 明, 杉田 俊博, 安藤 勝, 清浦 有祐

1. 科目の概要

将来歯科医師になる大学生として、「大学で学ぶ」とはどのようなものであるのか理解し、歯学の学びに必要な基本的な態度・倫理観を涵養し、スキルを身につける。正しい日本語、生きた言語に関する知識を身につけ、それらを正確に読み・書き、さらに他者の表現を理解することを通して自らの考えを整理し、それを正しく・わかりやすく伝えることができるようにする。そのためのスキルをさまざまな角度から学び、歯学の専門学習の基礎となる能力を養う。さらに、日本語でのコミュニケーション力を高め、人間性豊かな歯科医療人になる基礎力を獲得する。

2. 一般目標

「大学で学ぶ」ことに必要な態度・知識・スキルの基本を身につける。読む・書く・話す・聞くの基本態度、スキルを学び、「大学で学ぶ」ために必要な図書館利用術や書籍・論文・資料の読解法、資料の整理法といったリサーチスキルやプレゼンテーション技法、さらには論理的な文章やレポートの書き方のスキルを身につける。また、文章表現能力、日本語コミュニケーション能力を高め、聞く・話す・まとめる・伝える力を向上させる。

3. 到達目標

- 1) 歯科医療人となるための「読み・書き・話す・学ぶ」基礎力と倫理観を身につける。
- 2) 正しい日本語を用いて、わかりやすく説得力のある文を書き、伝えることができる。
- 3) 図書館を効率的に利用でき、情報収集能力を高める。
- 4) 講義や他者の発表をしっかりと聞くことができる。
- 5) 書籍・論文を背後の論理構造を理解しながら読むことができる。
- 6) 正しい日本語でのコミュニケーションができる。
- 7) 書き言葉の手紙・メールおよび話し言葉の電話ができる。
- 8) 敬語・マナー力を向上させる。
- 9) 歯学の専門学習に必要な学習法を理解できる。

4. 講義形態

講義資料をもとに、参加型・実践形式で展開していく。

5. 時間外学習

6. 評価方法

定期試験 (30%)、授業態度・プレゼンテーション (40%)、出席および・授業態度・貢献度 (30%) で評価し、65点以上を合格とする。

7. 教科書

『大学生のための日本語表現トレーニング・スキルアップ編』(三省堂)

8. 参考書

適宜プリントを配布する。

9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
1 2		オリエンテーション		
3	(B) 4月13日 (A) 4月14日	イントロダクション	大学で学ぶ意義・自学自習の動機づけ	唐沢 明
4	(B) 4月13日 (A) 4月14日	医療人になる	社会の一員・「怒」の理解	杉田 俊博
5	(B) 4月20日 (A) 4月21日	社会人としての基礎 1	読む・書く・聴く・議論してまとめる	唐沢 明
6	(B) 4月20日 (A) 4月21日	社会人としての基礎 2	伝えるコミュニケーションの重要性・必要性	〃
7	(B) 4月27日 (A) 4月28日	図書館利用術 1	図書館の利用の仕方<基礎>	安藤 勝
8	(B) 4月27日 (A) 4月28日	図書館利用術 2	図書館の利用の仕方<実践>	〃
9	(B) 5月11日 (A) 5月12日	自己紹介	具体的に話そう～話すスキルを身につけよう	唐沢 明
10	(B) 5月11日 (A) 5月12日	グループ討論 1	聴くスキル、傾聴力を身につけよう	〃
11	(B) 5月18日 (A) 5月19日	大学でのノートの取り方	書くスキルを身につけよう	〃
12	(B) 5月18日 (A) 5月19日	敬語の基礎	基本ルールをマスターしよう	〃
13	(B) 5月25日 (A) 5月26日	確実な連絡メモ	5 W 1 H でチェックしよう	〃
14	(B) 5月25日 (A) 5月26日	メールの書き方	依頼メールの基本を学ぼう	〃
15	(B) 5月30日 (A) 5月30日	手紙の書き方	書式とマナーの基本を身につけよう	〃
16	(B) 5月30日 (A) 5月30日	説明のコツ	「全体⇒部分」の順で説明しよう	〃
17	(B) 6月1日 (A) 6月2日	グループ討論 2	<実践演習>議論してまとめる力を養う	〃
18	(B) 6月1日 (A) 6月2日	アンケートの取り方	アンケート用紙の3大要素をおさえよう	〃
19	(B) 6月8日 (A) 6月9日	資料の読み取り	表・図・グラフから情報を抽出しよう	〃
20	(B) 6月8日 (A) 6月9日	グループ討論 3	<実践演習>議論してまとめる力を養う	〃
21	(B) 6月15日 (A) 6月16日	読解力を養う	科学論文の読み方	清浦 有祐
22	(B) 6月15日 (A) 6月16日	効果的なプレゼンテーション	レジュメ・視覚資料を作成しよう	唐沢 明
23	(B) 6月22日 (A) 6月23日	堅実なレポートの書き方	具体的な手順、体裁を学ぼう(卒業論文)	〃
24	(B) 6月22日 (A) 6月23日	グループ討論 4	<実践演習>議論してまとめる力を養う	〃
25	(B) 6月29日 (A) 6月30日	面接の受け方	質問内容を予想して準備しよう	〃

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
26	(B)6月29日 (A)6月30日	小論文の書き方	予め型を決めておこう	唐沢 明
27	(B)7月6日 (A)7月7日	エッセイ・ブログ	趣味的な文章の書き方を学ぼう	〃
28	(B)7月6日 (A)7月7日	グループ討論5	<実践演習>議論してまとめる力を養う	〃
29	(B)7月13日 (A)7月14日	まとめ1【復習・実践】	読む力・書く力	〃
30	(B)7月13日 (A)7月14日	まとめ2【復習・実践】	聴く力・議論してまとめる力	〃

経営学

科目責任者：長峯 英樹（非常勤講師）

担当教員：長峯 英樹（非常勤講師）

1. 科目の概要

経営学というと、「机上の空論」といったイメージがあるかもしれない。しかし、流行り廃りの激しいノウハウ談義に終始するのではなく、まずは「定石」を学び、その上で自らの独創性を加え、継続的に試行・検証・改善といった姿勢が不可欠ではないだろうか。

本講義では、将来、経営に関与する時に、経験や思い付きだけに頼る経営ではなく、ヒト、モノ、カネといった限られた資源と様々な環境の中で、最善の戦略やビジネスモデルを構築するための基礎的なフレームワークを学ぶことを目的としている。

2. 一般目標

ケーススタディーとしていくつかの企業を取り上げ、それらのビジネスモデルを学ぶことにより、企業経営に興味をもってもらうことを第一の目的としている。そして、その仕組みを分析・考察するための基礎的フレームワークを学ぶ。

3. 到達目標

- 1) 基礎的な分析フレームワークの理解
- 2) 様々なビジネスモデルの概要理解
- 3) 基礎的な論理的考察力の習得
- 4) 将来の経営スタイルのイメージ構想→継続的な考察→修正、といったプロセスの習慣化

4. 講義形態

基礎的フレームワークを学ぶとともに、いくつかのケースを取り上げ、考察・分析する。単なる講義形式に終始することなく、各設定テーマに関する議論をグループワークを通じて深めていきたい。

5. 時間外学習

予習：配布されたプリントを事前に読んでくること（30分）

復習：講義で学んだ理論やモデルを復習すること（60分）

その他：新聞や雑誌、経営書などを読むことにより、日常的に経営の知識を深める努力をすること

6. 評価方法

筆記試験（50%）、レポート（30%）、出席および授業態度・貢献度（20%）により評価し、65点以上を合格とする。

7. 教科書

毎回、プリントを配布するため指定教科書はない。

8. 参考書

逐次、紹介する。

9. 授業内容と日程

回	月日	タイトル	授業内容	担当者
1	9月7日		ビジネスモデルの分析視点	長峯 英樹
2	9月14日		ケーススタディー(1)	〃
3	9月21日		ケーススタディー(2)	〃
4	9月28日		ケーススタディー(3)	〃
5	10月5日		顧客の再定義	〃
6	10月12日		顧客価値の再定義	〃
7	10月19日		顧客の経済性	〃
8	10月26日		バリューチェーン	〃
9	11月2日		経営資源	〃
10	11月9日		収益モデル(1)	〃
11	11月16日		収益モデル(2)	〃
12	11月30日		ビジネスモデル変革の課題	〃
13	12月7日		ケーススタディー(4)	〃
14	12月14日		ケーススタディー(5)	〃
15	12月21日		筆記試験	〃

郡山学/福島学

科目責任者：安藤 勝

担当教員：安藤 勝、安藤 智重（非常勤講師）、丹治 徹（非常勤講師）、梅田 秀男（非常勤講師）、宗像 精（非常勤講師）、八子弥寿男（非常勤講師）、橋本 裕（非常勤講師）

1. 科目の概要

私たちが生活の拠点としている郡山/福島に関する諸々の事象を地域の視点から学びます。歴史や文化を通して地域の「いま」を再発見し、延いては地域の活性化に貢献できることを願っています。そのことはまた「自分」の発見にもつながります。

安積で学んだ明治時代の文芸評論家であり思想家でもある高山樗牛は「自分が立っている所を深く掘りなさい。そこから泉が湧き出てきます」と名言を残しています。私たちは自分が「いま」「ここに」居る地元の良さを発見し、地元の中にいる自分の生き方を問い、地元から世界へ、世界から地元へと、思考の回路を豊かにしていく必要があります。この科目で学ぶ対象は郡山/福島に関する自然、歴史、文化、産業、街並み、人物、生活、地域政策など多岐にわたります。地域について理解を深め、地域づくり、まちづくりに主体的に関わっていく力を養います。

2. 一般目標

- ・地域について学ぶ意義を理解する。
- ・歩く、見る、聞く、調べることにより、地元についてより深く理解し、良さを発見する。
- ・いま、ここにいる自分を発見する。自分探しをする。
- ・地元から世界を見つめる。世界から地元を見つめる。

3. 到達目標

- 1) 郡山/福島 of 歴史、文化、人物、行政などを他の人に説明ができ、文章も書ける。
- 2) よりよい地域をつくることに、主体的に関わることができる。
- 3) 地域のさまざまな情報に関心をもつことができる。
- 4) 地域の未来像をある程度描き、述べるができる。

4. 講義形態

講義テーマに関連したプリントや映像により説明する。

5. 時間外学習

その他：・本学図書館または地域の公共図書館で関連文献を探索し、事前・事後に講読する。
・できるだけ現場に足を運び、より実証的に理解を深める。

6. 評価方法

レポート（70%）、出席および授業態度・貢献度（30%）により評価し、65点以上を合格とする。

7. 教科書

なし

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

回	月日	タイトル	授業内容	担当者
1	9月7日	郡山の地名	郡山地名考	安藤 勝
2	9月14日	郡山の近代(1)	安積疏水	〃
3	9月21日	郡山の人物(1)	安積良斎	安藤 智重
4	9月28日	郡山の近代(2)	郡山市公会堂の歴史	丹治 徹
5	10月5日	郡山の人物(2)	朝河貫一	梅田 秀男
6	10月12日	郡山の人物(3)	蒲生 明	安藤 勝
7	10月19日	会津を知る(1)	戊辰戦争	〃
8	10月26日	会津を知る(2)	会津藩校日新館	宗像 精
9	11月2日	会津を知る(3)	野口英世	八子弥寿男
10	11月9日	福島県を知る	福島県の歴史と文化	安藤 勝
11	11月16日	東日本大震災	震災と原発	〃
12	11月30日	郡山の近代(3)	安積開拓	〃
13	12月7日	郡山の現代	郡山の魅力と未来展望	橋本 裕
14	12月14日	発表とまとめ		安藤 勝
15	12月21日	発表とまとめ		〃

基礎物理学

科目責任者：菊地 尚志

担当教員：菊地 尚志

1. 科目の概要

「物理学」という言葉だけで、難しそうで苦手だとアレルギー反応を起こす学生が多いです。しかし、物理学の歴史を振り返って見ると、私たちの身の回りの自然界の至る所で起こっている現象への素直な疑問がその発展の原動力でした。「基礎物理学」では物理学を日常的に感じられるように授業を進めていきます。

物理学が問題とする非常に広範な事柄、具体的には力学、熱力学、原子論から、歯学部の子生にとって将来具体的に必要になると共に、広く一般教養を身につける上で大事と思われる題材を選び、授業を進めていきます。とりわけ、エネルギーという言葉は物理を専門とする人でなくてもよく聞く言葉です。それは諸々の自然現象の中で、形態は変えるが絶対量は変化しないという性質を持ちます。そのため、例えば、歯科医師が日常的に使っているX線の被曝の程度もエネルギーを用いて測られます。エネルギーについての正しい感覚が身につくことがひとつの目標になります。

2. 一般目標

物理学に基づいた歯科医師としての客観的、合理的な判断力を養うために物理学の普遍性とその応用の広範さを理解する。

3. 到達目標

- 1) 力の作用と伝達の法則を説明する。
- 2) 力学の基本法則を説明し、物体の運動を記述する。
- 3) 様々な物理過程でのエネルギーの収支を説明する。
- 4) 熱を物体の構成粒子の運動で説明する。
- 5) 放射能を物理学的に説明する。

4. 講義形態

板書を中心に授業を行います。学生がノートをしっかりとることを前提で板書を行います。ノートの内容を理解している事が「評価」になりますから、しっかり手を動かしてノートを取りましょう。

5. 時間外学習

予習：前回の授業内容に取りこぼしのないように理解を進めて授業に参加しましょう。(20分)

復習：授業した内容が理解できれば充分です。ノートを復習して毎回しっかり理解しましょう。(30分)

その他：

6. 評価方法

前期と後期のそれぞれに中間試験と定期試験を実施し、中間試験30%、定期試験70%で成績に集計して可否を決定する。必要のある場合レポートなどの課題を課して、最大30%の範囲でその結果を成績に加え、65点以上を合格とする。

7. 教科書

シップマン自然科学入門 新物理学 (学術図書出版)

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
1		オリエンテーション		
2				
3	4月13日	授業の案内	授業内容の歯科的な意義を検討する	菊地 尚志
4	4月13日			〃
5	4月20日	自然界の力	身の周りの力を認識する	〃
6	4月20日		力の伝わり方を知る	〃
7	4月27日	力の物理学	力の釣り合いと合成	〃
8	4月27日		力の合成1	〃
9	5月11日		力の合成2	〃
10	5月11日		力の合成と釣り合いの実演	〃
11	5月18日		骨格と筋肉の力の釣り合い	〃
12	5月18日		大きさのある物体に働く力の釣り合いと合成	〃
13	5月23日		大きさのある物体に働く力の釣り合いと合成の演習1	〃
14	5月23日		大きさのある物体に働く力の釣り合いと合成の演習2	〃
15	5月25日		てこの原理	〃
16	5月25日		顎の構造と歯列に働く力の釣り合い	〃
17	6月1日		中間試験	〃
18	6月1日		中間試験の振り返り	〃
19	6月8日	ニュートン力学	運動と力	〃
20	6月8日		加速度と力	〃
21	6月15日		重力と重力加速度	〃
22	6月15日		落下運動、走りの物理学	〃
23	6月22日		投げの物理学	〃
24	6月22日	仕事とエネルギー	仕事の固有性と位置エネルギー	〃
25	6月29日		運動エネルギー	〃
26	6月29日		エネルギーで物体の運動を考える	〃
27	7月6日		電気のエネルギー	〃
28	7月6日		水力発電のエネルギー	〃
29	7月13日		弾性エネルギー	〃
30	7月13日		地震と隕石のエネルギー	〃
31	9月7日	熱力学	後期授業への導入	〃
32	9月7日		温度と熱	〃
33	9月14日		熱量と比熱	〃
34	9月14日		熱平衡状態への温度変化	〃
35	9月21日		圧力と大気圧	〃
36	9月21日		圧力平衡	〃
37	9月28日		密度計、気圧計、ポンプの限界	〃

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
38	9月28日		気体の状態方程式	菊地 尚志
39	10月5日		気体分子運動と内部エネルギー	〃
40	10月5日		熱と仕事の等価性, 気体の熱容量	〃
41	10月12日		気体の状態変化についての演習	〃
42	10月12日		仕事による温度変化の具体例	〃
43	10月19日		物体の相転移	〃
44	10月19日		中間試験	〃
45	10月26日		中間試験の振り返り	〃
46	10月26日	原子物理学	原子と電子	〃
47	11月2日		X線の発見	〃
48	11月2日		電磁波と光子	〃
49	11月9日		X線管	〃
50	11月9日		放射能の発見	〃
51	11月16日	原子核物理学	原子核と原子模型	〃
52	11月16日		原子の発光スペクトル	〃
53	11月30日		原子の質量	〃
54	11月30日		原子の大きさ	〃
55	12月7日		核子と同位体	〃
56	12月7日		原子核と放射能	〃
57	12月14日		原子核反応と応用	〃
58	12月14日		放射線被曝	〃
59	12月21日		問題演習	〃
60	12月21日		まとめ	〃

物理学実験

科目責任者：菊地 尚志

担当教員：菊地 尚志、青木 潔

1. 科目の概要

物理学が対象とするのは自然そのものです。そこで起こる様々な現象を人間の理性に則して、例えば、法則と言う形に焼き直して理解するのが物理学です。しかし、現象から法則を引き出す事は、目の前で起こる現象そのままからでは多くの二次的な要素が含まれていて困難です。そこでガリレオ以来、理性が問いかける問題点を端的に表す実験を企画しそれを通して自然を眺める事で、我々は物理学を発展させてきました。実験実習の第一の目的は、物理学のそのような性格を実感する事です。さらに、歯科医師となった時に有用な物理実験を積極的に取り入れます。

2. 一般目標

物理学が記述している事柄が現実の自然現象を表現していることを理解するために、様々な実験を実施する。その経験を通し、将来直面する問題を理性的に判断するために、合理的に解決できる能力を養う。自分の判断、解決を理路整然と文章にまとめ、他者へ説明する能力も養う。

3. 到達目標

- 1) 自然現象を説明する。
- 2) 機器を正しく取り扱う。
- 3) 誤差を含む数値を処理する。
- 4) 報告書を分かり易く書く。

4. 講義形態

実験を実施する前に担当する実験について教科書で予習し安全に実験を進める。実験での測定値が妥当なものであるか確認しながら慎重に実験を進める。実験結果を、他者に分かり易く伝えることを意識して報告書にまとめる。

5. 時間外学習

- 予習：毎回の実験の終了時に次の実験の割り当てをしっかりと確認して、予習をしましょう。(30分)
復習：読みやすい報告書を書く事は将来の現場で患者さんの同意を得る（インフォームドコンセント）技術を養う事になります。積極的な気持ちで報告書を書きましょう。

その他：

6. 評価方法

毎回の実験を、出席し実験を行なったとき40%、提出された報告書その内容によって最大60%で評価する。半期分全体の成績の総和で65点以上を合格とする。

7. 教科書

奥羽大学歯学部物理学教室編『物理学実験』

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
1		重力加速度	ボルダ振り子で重力加速度を測る	菊地 尚志 青木 潔
2		ヤング率	ユーイングの装置で金属のヤング率を測る	〃
3		ヤング率	サールの装置で金属のヤング率を測る	〃
4		剛性率	ねじれ振り子で金属の剛性率を測る	〃
5		液体の密度	ヘアーの装置で液体の密度を測る	〃
6		気象	気圧、気温、密度を測る	〃
7		熱膨張率	金属の熱膨張の膨張率を測る	〃
8		屈折率	プラスチック、ガラス、水に屈折率を測る	〃
9		旋光性	ローラン検糖計でしょ糖の旋光性を見る	〃
10		電位	電極によって生じる電位差を測る	〃
11		電気抵抗	金属の電気抵抗の温度依存性を測る	〃
12		電気抵抗	電解質溶液の電気抵抗の濃度と温度への依存性を測る	〃
13		熱起電力	熱電対に生じる熱起電力を測る	〃
14		周波数と位相差	シンクロスコープで二つの正弦波の位相差と周波数比を測る	〃
15		半導体素子	半導体トランジスタとダイオードの電気特性を測る	〃

基礎化学

科目責任者：秋山 哲夫

担当教員：秋山 哲夫

1. 科目の概要

歯科医にとって正しい化学知識を持つことは必須です。高校の時に化学を選択しなかった学生にも理解しやすいような基本的事柄を中心に講義を行います。

前期は無機化学を中心に行います。生命科学を学ぶ際に必ず出会う元素記号，化合物の化学式を覚えてもらうことを中心に，放射能，化学反応などの基礎知識，溶液の濃度計算なども行います。

後期は有機化学を講義します。IUPAC命名規則を中心にして，暗記だけでなく，自力で問題を解くための基礎的な練習として，教科書の効果的な活用法を学んでもらいます。

2. 一般目標

- 1) 専門的知識の習得，理解のために必要な，基本的無機化合物の名称及び化学式を覚える。
- 2) 自力で問題解決ができるようになるために，教科書の効率的活用法を習得する。

3. 到達目標

- 1) 元素名から元素記号を記述する。
- 2) 元素記号から元素名を記述する。
- 3) 無機化合物の名称から化学式を記述する。
- 4) 化合物の化学式から名称を記述する。
- 5) 簡単な有機化合物の構造式をIUPAC規約に従って命名する。
- 6) IUPAC規約に従って命名された化合物の名称から構造式を記述する。

4. 講義形態

教科書の記述を中心に行います。

重要なポイント，考え方を伝え，時には教科書に記載されていない情報も追加します。

5. 時間外学習

予習：教科書の理解できない用語あるいは記述をチェックし，ノートに書きだしておく。(30分)

復習：理解不十分な個所の洗い出し。章末問題を解くことによる確認。(30分)

その他：章末問題の解答は，講義資料として学内ネットに適宜掲載。

6. 評価方法

基本的には期末試験の成績で評価する。

期末試験の成績(90%)，出席および授業態度・貢献度(10%)で評価し，65点以上を合格とする。

7. 教科書

Molly M Bloomfield 著 伊藤俊洋 他訳 「生命科学のための基礎化学－無機物理化学編」 丸善

Molly M Bloomfield 著 伊藤俊洋 他訳 「生命科学のための基礎化学－有機・生化学編」 丸善

8. 参考書

特に指定しない。

9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授業内容	担当者
1		オリエンテーション		
2				
3	4月11日	ガイダンス	講義の進め方，化学とは	秋山 哲夫
4	4月11日	物質の性質	物質の定義，種類，構成要素	〃
5	4月18日	測定－1	測定の重要性，基準，国際単位系	〃
6	4月18日	測定－2	数値の信頼性，有効数字	〃
7	4月18日	エネルギー－1	定義と種類	〃
8	4月18日	エネルギー－2	保存則，エントロピー	〃
9	4月25日	原子の構造	原子の内部構造	〃
10	4月25日	電子配置	化学的性質との関連	〃
11	5月9日	周期表	周期表の重要性，元素記号	〃
12	5月9日	生命元素	生命活動と微量元素	〃
13	5月16日	化学結合	イオン結合，共有結合	〃
14	5月16日	電気陰性度	極性，水素結合	〃
15	5月23日	化学式	基本的な化合物の化学式	〃
16	5月23日	化学反応式	質量保存の法則，モルの重要性	〃
17	5月30日	分子量，式量	アヴォガドロ数，モルの計算	〃
18	5月30日	演習－1	章末問題による分子量，式量の計算	〃
19	6月6日	物質の三態	構成微粒子の運動量による分類	〃
20	6月6日	気体	理想気体の方程式	〃
21	6月13日	放射能－1	原子と放射能	〃
22	6月13日	放射能－2	生物学的影響	〃
23	6月20日	化学反応速度	速度に影響を与える因子	〃
24	6月20日	化学平衡	ルシャトリエの原理	〃
25	6月27日	コロイド，溶液	性質と種類，電解質，非電解質，溶解度	〃
26	6月27日	溶液の濃度－1	%濃度，ppm濃度の計算	〃
27	7月4日	溶液の濃度－2	モル濃度，当量の計算	〃
28	7月4日	酸と塩基－1	ブレンステッドローリーの定義	〃
29	7月11日	酸と塩基－2	pH，定義と計算，中和反応	〃
30	7月11日	前期の復習	小テスト	〃
31	9月6日	期末試験の講評	正解の提示，誤りの分析，結果の講評	〃
32	9月6日	有機化合物	炭素原子の特異性，構造式	〃
33	9月13日	飽和炭化水素－1	アルカン，基本となるIUPAC規約命名法	〃
34	9月13日	飽和炭化水素－2	炭素骨格，構造異性体の存在	〃
35	9月20日	不飽和炭化水素－1	アルケン，IUPAC規約	〃
36	9月20日	不飽和炭化水素－2	シス－，トランス－異性体の存在と区別	〃
37	9月27日	環式炭化水素－1	シクロ化合物，IUPAC規約	〃
38	9月27日	環式炭化水素－2	立体異性体の存在と表記法による区別	〃
39	10月4日	芳香族炭化水素	ベンゼン置換体，IUPAC規約	〃

回	月 日	タイトル	授業内容	担当者
40	10月4日	演習-2	章末問題による演習	秋山 哲夫
41	10月11日	含酸素有機化合物-1	アルコール, IUPAC規約	〃
42	10月11日	含酸素有機化合物-2	エーテル, IUPAC規約, 置換基としての命名	〃
43	10月18日	含酸素有機化合物-3	アルデヒド, ケトン, IUPAC規約	〃
44	10月18日	含酸素有機化合物-4	カルボン酸, IUPAC規約	〃
45	10月25日	含酸素有機化合物-5	エステル, IUPAC規約	〃
46	10月25日	演習-3	章末問題による演習	〃
47	11月1日	含窒素有機化合物-1	アミン, IUPAC規約	〃
48	11月1日	含窒素有機化合物-2	アミド, IUPAC規約	〃
49	11月8日	含窒素有機化合物-3	複素環式化合物	〃
50	11月8日	演習-4	章末問題による演習	〃
51	11月15日	炭水化物-1	単糖類	〃
52	11月15日	炭水化物-2	不斉炭素, 光学異性体	〃
53	11月22日	炭水化物-3	光学異性体, 生理機能の違い	〃
54	11月22日	炭水化物-4	多糖類	〃
55	11月29日	脂質-1	脂質の分類, 単純脂質	〃
56	11月29日	脂質-2	必須脂肪酸	〃
57	12月6日	タンパク質-1	アミノ酸	〃
58	12月6日	タンパク質-2	必須アミノ酸	〃
59	12月13日	タンパク質-3	構造, 変性	〃
60	12月13日	後期の復習	小テスト	〃

化学実験

科目責任者：秋山 哲夫

担当教員：秋山 哲夫、阿部 匡聡

1. 科目の概要

実験は講義と異なり、各操作の必要性、重要性を理解したうえで、定められた手順に従って、自分の手を動かして行わなければならない。化学実験では、有機定性分析と無機定量分析を行う。基本的な操作の習得および正確なレポートの書き方の習熟に重点を置く。有機定性分析においては、官能基の種類による反応の違い、さらに特異反応による検出確認の可能性を観察する。無機定量分析においては、歯科に関係の深い物質（Ca、Mgイオン、過酸化水素、フッ素イオンなど）を対象とする。

2. 一般目標

- 1) 実習書を読んで手順を理解することができる。
- 2) 実験に対する基本的な心構えを習得する。
- 3) 定性、定量分析についての基礎知識、基本的技能を習得する。
- 4) 得られたデータをレポートとしてまとめることができる。

3. 到達目標

- 1) 実習書の手順通りに実験を行う。
- 2) 実験器具を正しく取り扱う。
- 3) 容量器具の目盛を正確に読み取る。
- 4) 得られたデータを正確に記録する。
- 5) 記録を基に正確なレポートを作成する。

4. 講義形態

実験実習による。定性分析は基本的に個人単位で行い、観察結果を基に、化学反応式を考えレポートとして記述、提出する。定量分析は3～4人のグループ単位で行い、得られた数値データを基に濃度などを計算し、各個人がレポートとして提出する。

5. 時間外学習

予習：実験の内容に目を通し、当日観察あるいは記録すべき事柄をノートに記録しておく。(30分)

復習：実験により得られたデータや観察結果をレポートにまとめる。(60分)

その他：提出されたレポートは、後日添削して返却する。次回の参考資料とすること。

6. 評価方法

提出したレポートの評価（90%：定性分析45%、定量分析45%）、出席および授業態度・貢献度（10%）で評価し、65点以上を合格とする。

7. 教科書

奥羽大学歯学部化学教室編「化学実験テキスト」 2016

8. 参考書

特に指定しない。

9. 授業内容と日程

回	月日	タイトル	授業内容	担当者
1	9月1日	ガイダンス	実験に対する一般的な注意事項および説明	秋山 哲夫 阿部 匡聡
2	9月8日	実験準備-有機定性	使用する試薬、器具の確認、使い方の練習	〃
3	9月15日	炭化水素の反応	アルケンの臭素付加反応、バイヤー試薬、ベンゼンのニトロ化、スルホン化、他	〃
4	9月29日	実験準備-無機定量	容量器具の取り扱い	〃
5	10月6日	中和滴定	NaOHの標定、HClの標定	〃
6	10月13日	アルコールの反応	アルコールの酸化、脱水反応、エステル化、ルーカス試験、ヨードホルム試験	〃
7	10月20日	キレート滴定	EDTAによるCa、Mgイオンの定量	〃
8	10月27日	フェノール類の反応	アルカリに対する溶解性、臭素化、塩化鉄(Ⅲ)反応、エステル化、4-アミノアンチピリンとの酸化的縮合	〃
9	11月10日	酸化還元滴定	過マンガン酸カリウム溶液の標定、過酸化水素の定量	〃
10	11月17日	アルデヒド、ケトンの反応	フェーリング反応、銀鏡反応、2, 4-ジニトロフェニルヒドラジンとの反応、ベンズアルデヒドの酸化、他	〃
11	11月24日	イオン電極法	イオン電極を用いた各種歯磨剤、および水道水中のフッ素イオンの定量	〃
12	12月1日	アミンの反応	アミン塩酸塩の生成、アセチル化、アリザリンイエローR・バラレッドの生成、他	〃
13	12月8日	飲料水の硬度測定	EDTAを用いた各種ミネラルウォーターの硬度測定	〃
14	12月15日	糖質の反応	バーフォード反応、セリワノフ反応、フェーリング反応、赤色テトラゾリウム還元、二糖の加水分解、他	〃
15	12月22日	実験の総括	実習中には説明しきれなかった部分の追加説明、実習の総合評価、質問に対する回答、他	〃

クラスごとの詳細な日程は、ガイダンス時にプリントとして配布予定

基礎生物学

科目責任者：前田 豊信

担当教員：前田 豊信，今井 元，鈴木 礼子

1. 科目の概要

近年、分子生物学レベルあるいは細胞生物学レベルでの疾病の発症メカニズムが解明され、これらの情報に基づいた分子標的治療が開発されている。また、iPS細胞などを用いた再生医療技術の進歩により、再生医療の日常歯科臨床治療への応用も現実味を帯びてきている。このような背景から本科目では、細胞分子生物学と発生生物学の基礎について学修し、生命科学教育科目の入門科目として、歯科医師として必要な生命現象の理解を目標とする。具体的には、前期に、「細胞生物学」・「遺伝生物学」・「分子生物学」の講義が行われる。また、後期には、生殖と初期発生 及び 器官発生と進化などの「発生生物学」についての講義が行われる。

2. 一般目標

歯科医療の基盤となる生命科学の基礎を養うために、生命の継続性、成り立ちを習得し、科学的な観察と理解をする姿勢を身につける。

3. 到達目標

- 1) 細胞の構造と機能について説明できる。
- 2) 生体を構成する基本分子とその代謝について説明できる。
- 3) 遺伝子の構造と機能について説明できる。
- 4) 動物の「生殖と初期発生」について説明できる。
- 5) 動物の「各器官の発生過程」について説明できる。

4. 講義形態

事前に配布するプリントに沿って講義を行う。必要に応じて、スライド等の視覚教材を用いる。また、知識の確認のために、随時、演習問題等で確認を行う。

5. 時間外学習

予習：講義は配布プリントを使用し、シラバスに沿って行われる。事前に目を通しておく。(30分)
 復習：講義プリントを利用し、問題演習も含めて、復習を行う。(30分)
 その他：後期の発生生物学では、配布した課題（想定問題や小テスト）を基に、討議し、解答を作成する。(60分)

6. 評価方法

前期は4回の小試験（20%）と定期試験（80%）で行う。
 後期の『発生生物学（各論・総論）』では、定期試験による成績（50%）と課題（想定問題や小テストなど）の提出や出席状況を含む受講態度（50%）を勘案して評価し、65点以上を合格とする。

7. 教科書

配布プリント

8. 参考書

基礎から学ぶ 生物学・細胞生物学 第2版 和田 勝 著 羊土社
 人体の正常構造と機能 改訂2版：坂井建雄，河合克雅 総編集 日本医事新報社
 ラングマン人体発生学 第10版：T.W.Sadler（著），安田峯生（翻訳），MEDSi社

9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：)，出題基準記号(国：)	
1		オリエンテーション		
2				
3	4月14日	ガイダンス	個体の階層性発生学を学ぶ意味	今井 元
4	4月14日	細胞の構造(1)	原核(細胞)生物・真核(細胞)生物 準コ：2-(2) 国：必修6-ア-b, 総論Ⅲ-1-イ	〃
5	4月21日	細胞の構造(2)	細胞分裂(染色質・細胞骨格の変化) 準コ：2-(2) コ：C-1-2)-②, 3)-③ 国：必修6-ア-a, 総論Ⅲ-1-エ	〃
6	4月21日	細胞の構造(3)	細胞周期(染色質・細胞骨格の変化) 準コ：2-(2) コ：C-1-2)-②, 3)-③ 国：必修6-ア-a, 総論Ⅲ-1-エ	〃
7	4月25日	生体の分子(1)	生体分子の基本構造 準コ：2-(2) コ：C-1-1) 国：必修6-ア-d, 総論Ⅲ-1-ア	前田 豊信
8	4月25日	生体の分子(2)	生体の基本分子の役割 準コ：2-(2) コ：C-1-1) 国：必修6-ア-d, 総論Ⅲ-1-ア	〃
9	4月28日	生体の分子(3)	栄養素の消化・吸収 準コ：2-(2) コ：C-1-1) 国：必修6-ア-d, 総論Ⅲ-1-ア	〃
10	4月28日	生体の分子(4)	酵素反応 準コ：2-(2) コ：C-1-1) 国：必修6-ア-d, 総論Ⅲ-1-ア	〃
11	5月12日	生体の分子(5)	細胞内での酵素 小試験① 準コ：2-(2) コ：C-1-1) 国：必修6-ア-d, 総論Ⅲ-1-ア	〃
12	5月12日	細胞の代謝(1)	解糖系 準コ：2-(2) コ：C-1-1) 国：必修6-ア-b, 総論Ⅲ-1-イ	〃
13	5月19日	細胞の代謝(2)	クエン酸回路・電子伝達系 準コ：2-(2) コ：C-1-1) 国：必修6-ア-b, 総論Ⅲ-1-イ	〃
14	5月19日	細胞の代謝(3)	シャトルとエネルギー 準コ：2-(2) コ：C-1-1) 国：必修6-ア-b, 総論Ⅲ-1-イ	〃
15	5月26日	細胞の代謝(4)	脂質代謝 準コ：2-(2) コ：C-1-1) 国：必修6-ア-b, 総論Ⅲ-1-イ	〃
16	5月26日	細胞の代謝(5)	アミノ酸代謝 小試験② 準コ：2-(2) コ：C-1-1) 国：必修6-ア-b, 総論Ⅲ-1-イ	〃
17	6月2日	遺伝子(1)	遺伝子の構造と機能 準コ：2-(2) コ：C-1-2) 国：必修6-ア-a, 総論Ⅲ-1-エ	〃

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ:), 出題基準記号(国:)	
18	6月2日	遺伝子(2)	DNAの複製 人工的DNAの複製(ポリメラーゼ連鎖反応) 準コ:2-(2) コ:C-1-2 国:必修6-ア-a, 総論IX-3-ク	前田 豊信
19	6月9日	遺伝子(3)	遺伝の法則 準コ:2-(2) コ:C-1-2	〃
20	6月9日	遺伝子(4)	突然変異・真核細胞のゲノム コ:C-1-2 国:総論VI-1-ア, III-1-エ	〃
21	6月16日	遺伝子発現(1)	セントラルドグマ(1):転写 コ:C-1-2 国:必修6-ア-a, 総論III-1-エ	〃
22	6月16日	遺伝子発現(2)	セントラルドグマ(2):翻訳/翻訳後修飾 コ:C-1-2 国:必修6-ア-a, 総論III-1-エ	〃
23	6月23日	遺伝子発現(3)	転写調節機構 小試験3 コ:C-1-2 国:必修6-ア-a, 総論III-1-エ	〃
24	6月23日	細胞間の情報伝達(1)	内分泌, ホルモン 準コ:2-(3) コ:C-1-4 国:必修6-ア-e, 総論III-1-ウ	〃
25	6月30日	細胞間の情報伝達(2)	受容体の構造・機能 準コ:2-(3) コ:C-1-4 国:必修6-ア-e, 総論III-1-ウ	〃
26	6月30日	細胞間の情報伝達(3)	脂溶性ホルモンのシグナル伝達 準コ:2-(3) コ:C-1-4 国:必修6-ア-e, 総論III-1-ウ	〃
27	7月7日	細胞間の情報伝達(4)	水溶性ホルモンのシグナル伝達(1) 準コ:2-(3) コ:C-1-4 国:必修6-ア-e, 総論III-1-ウ	鈴木 礼子
28	7月7日	細胞間の情報伝達(5)	水溶性ホルモンのシグナル伝達(2) コ:C-1-4 国:必修6-ア-e, 総論III-1-ウ	〃
29	7月14日	遺伝子工学	遺伝子工学 コ:C-1-2 国:必修6-ア-a, 総論IX-3-ク	前田 豊信
30	7月14日	遺伝子工学と応用	遺伝子工学と疾患 小試験④ 国:必修6-ア-a, 総論IX-3-ク	〃
31	9月1日	生殖と初期発生1 (発生生物学総論①)	生殖細胞形成:体細胞分裂・減数分裂 準コ:2-(2) コ:C-2-2① 国:必須6-ア-a, 総論V-1-ア	今井 元
32	9月8日	生殖と初期発生2-(1) (発生生物学総論②)	生殖細胞形成:視床下部-下垂体-性腺系の役割 準コ:2-(2) コ:C-2-2① 国:総論V-1-ア	〃
33	9月15日	生殖と初期発生2-(2) (発生生物学総論②)	排卵・受精・卵割・着床と性ホルモンの役割 準コ:2-(2) コ:C-2-2① 国:総論V-1-イ	〃
34	9月29日	生殖と初期発生3 (発生生物学総論③)	2層性胚盤の形成:内細胞塊・外細胞塊の分化 準コ:2-(2) コ:C-2-2① 国:総論V-1-ア	〃

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ:), 出題基準記号(国:)	
35	10月6日	生殖と初期発生4 (発生生物学総論④)	3胚葉の形成:2層性胚盤から3層性胚盤へ 準コ:2-(2) コ:C-2-2① 国:総論V-1-イ	今井 元
36	10月13日	生殖と初期発生5(1) (発生生物学総論⑤)	3胚葉の分化運命 準コ:2-(2) コ:C-2-2① 国:総論V-1-イ	〃
37	10月20日	生殖と初期発生5(2) (発生生物学総論⑥)	初期発生に関わる遺伝子 準コ:2-(2) コ:C-2-2① 国:総論V-1-イ	〃
38	10月27日	器官発生と進化1 (発生生物学各論①)	頭頸部と内分泌腺の器官発生の概要 準コ:2-(2) コ:C-2-2① 国:必修7-イ-b, 総論V-1-イ, ウ	〃
39	11月10日	器官発生と進化2 (発生生物学各論②)	口腔と顔面の器官発生の概要 準コ:2-(2) コ:E-2-3 国:必修7-イ-b, 総論V-1-イ, ウ	〃
40	11月17日	器官発生と進化3 (発生生物学各論③)	呼吸器系の器官発生の概要 準コ:2-(2) コ:C-2-2① 国:必修6-ア-e, 総論V-1-イ, ウ	〃
41	11月24日	器官発生と進化4 (発生生物学各論④)	消化器系の器官発生の概要 準コ:2-(2) コ:C-2-2① 国:必修6-ア-e, 総論V-1-イ, ウ	〃
42	12月1日	器官発生と進化5 (発生生物学各論⑤)	泌尿器系の器官発生の概要 準コ:2-(2) コ:C-2-2① 国:必修6-ア-e, 総論V-1-イ, ウ	〃
43	12月8日	器官発生と進化6 (発生生物学各論⑥)	生殖器系の器官発生の概要 準コ:2-(2) コ:C-2-2① 国:必修6-ア-e, 総論V-1-ウ	〃
44	12月15日	器官発生と進化7 (発生生物学各論⑦)	神経系の器官発生の概要 準コ:2-(2) コ:C-2-2① 国:必修6-ア-c・e, 総論V-1-イ, ウ	〃
45	12月22日	器官発生と進化8 (発生生物学各論⑧)	循環器系の器官発生の概要 準コ:2-(2) コ:C-2-2① 国:必修6-ア-e, 総論V-1-イ, ウ	〃

生 物 学

科目責任者：今井 元

担当教員：今井 元

1. 科目の概要

歯科医師を目指す学生は、物質の科学を基礎として、生体の構成要素である細胞、細胞によって構成された個体の機能を理解し、生物がどのように地球上で進化適応してきたか、現在どのような相互関係にあるかを修得する必要がある。本科目では、生命体の基本となる「細胞→組織→器官→器官系→個体」などの階層性」及びその「構造と機能」を歯学教育で行う系統的な体系の中で理解し、さらに、その「発生過程」「進化過程」などを学ぶことにより、長期記憶を形成する。具体的には、「細胞の構造」・「脊椎動物の組織」・「刺激の受容と反応」・「体内環境の調節と恒常性の維持」・「生物の進化（系統発生と個体発生）」と多様性」・「生態と行動」についての講義が行われる。

2. 一般目標

「人間性豊かな歯科医師」を目指すために、初期段階として生命科学の基礎及び生物学的なものの見方・考え方を通じて、科学的にものを観察・理解をする姿勢を習得する。また、専門課程で学習する高度で専門的な知識をいれる「頭の中の引き出し（脳内コンテンツ：目次）」を確立するために、脊椎動物の「体制」と「発生」を系統的に学ぶ。

3. 到達目標

- 1) 生命体の基本となる「細胞→組織→器官→器官系→個体などの階層性」を説明できる。
- 2) 生物（原核生物・真核生物など）における「細胞の構造と機能」を説明できる。
- 3) 生物（脊椎動物）における「組織の基本構造と機能」を分類し、系統的に説明できる。
- 4) 生物（脊椎動物）における「各器官系の構造と機能」を分類し、系統的に説明できる。
- 5) 生物（脊椎動物）における「刺激の受容と反応」について、系統的に説明できる。
- 6) 生物（脊椎動物）における「体内環境の調節と恒常性の維持」について、系統的に説明できる。
- 7) 生物（脊椎動物）の「進化（系統発生と個体発生）」と多様性」について説明できる。
- 8) 生物（脊椎動物）の「生態と行動」について説明できる。

4. 講義形態

『生物学』の講義は、『基礎生物：細胞生物学と発生生物学』や『生物学実験』と連動させて行う。また、講義は、配布する講義プリントに沿って進行する。重要なポイントについては、強調して説明の上、課題（生物学 [スケッチや小テスト]）を出し、次回、又は、試験の前後の講義で確認を行う。さらに、適宜追加視覚素材（動画など）や信頼できるサイトの教育素材などを用い、理解の助けとする。

5. 時間外学習

予習：配布された予習プリント参考に、予習問題（練習問題）のテーマについて討議し、解答を作成する。（30分）

復習：配布された講義プリントを参考に、復習問題（スケッチ）のテーマについて討議し、解答を作成する。（30分）

その他：MCQ（小テスト）を配布し、各問題のテーマについて討議し、解答を作成する。（10分）

6. 評価方法

「生物学」では、試験（時間内に行う試験も含む）による成績（50%）と課題（スケッチ・小テスト）の提出や出席状況を含む受講態度を勘案（50%）して評価し、65点以上を合格とする。

7. 教科書

配布プリントに沿って進める。

8. 参考書

基礎から学ぶ 生物学・細胞生物学 第2版：和田 勝 著 羊土社

人体の正常構造と機能 改訂2版：坂井 建雄, 河合克雅 総編集 日本医事新報社

得意になる解剖生理学—からだのしくみが目で見てわかる：美田 誠二 (著) 照林社

ラングマン人体発生学 第10版：T.W.Sadler (著), 安田峯生 (翻訳) MEDS社

9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：), 出題基準記号(国：)	
1		オリエンテーション		
2	4月14日	生物学(1)： 細胞の構造	細胞核・細胞内小器官 準コ：2-(2) コ：C-1-3)-① 国：必修6-ア-b, 総論Ⅲ-1-イ	今井 元
3	4月21日	生物学(2)： 細胞の構造	細胞骨格・細胞外基質(1) 準コ：2-(2) コ：C-1-4)-①, ③ 国：必修6-ア-b, 総論Ⅲ-1-イ	〃
4	4月25日	生物学(3)： 細胞の構造	細胞骨格・細胞外基質(2)：小テスト(細胞・細胞分裂) 準コ：2-(2) コ：C-1-4)-①, ③ 国：必修6-ア-b, 総論Ⅲ-1-イ	〃
5	4月28日	生物学(4)： 脊椎動物の組織(1)	上皮と腺の全体像と役割 コ：C-2-3)-(1)①②③ 国：必修6-ア-c, 総論Ⅲ-1-オ	〃
6	5月12日	生物学(5)： 脊椎動物の組織(2)-1)	結合組織の全体像と役割 コ：C-2-3)-(1)④ 国：必修6-ア-c, 総論Ⅲ-1-カ	〃
7	5月19日	生物学(6)： 脊椎動物の組織(2)-2)	軟骨の全体像と役割 コ：C-2-3)-(1)⑤⑥ 国：必修6-ア-c, 総論Ⅲ-2-キ	〃
8	5月26日	生物学(7)： 脊椎動物の組織(2)-3)	骨の全体像と役割 コ：C-2-3)-(1)⑤⑥ 国：必修6-ア-c, 総論Ⅲ-2-キ	〃
9	6月2日	生物学(8)： 脊椎動物の組織(3)	筋の全体像と役割 コ：C-2-3)-(1)⑧ 国：必修6-ア-c, 総論Ⅲ-1-キ	〃
10	6月9日	生物学(9)： 脊椎動物の組織(4)-1)	神経組織と神経系の全体像と役割 コ：C-2-3)-(5)①～④ 国：必修6-ア-c, 総論Ⅲ-1-ク, 2-キ	〃
11	6月16日	生物学(10)： 脊椎動物の組織(4)-2)	末梢神経と中枢神経の構造と機能の違い コ：C-2-3)-(5)①～⑦ 国：必修6-ア-c, 総論Ⅲ-1-ク	〃
12	6月23日	生物学(11)： 刺激の受容と反応(1)	神経の伝導(1)：静止膜電位・活動電位 コ：C-2-3)-(5)⑦⑧ 国：必修6-ア-c, e, 総論Ⅲ-2-キ, ク	〃
13	6月30日	生物学(12)： 刺激の受容と反応(2)	神経の伝導(2)：跳躍伝導 コ：C-2-3)-(5)⑦⑧ 国：必修6-ア-c, e, 総論Ⅲ-2-キ, ク	〃

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ:), 出題基準記号(国:)	
14	7月7日	生物学(13): 刺激の受容と反応(3)	神経の伝達: 神経の興奮から筋収縮までの流れ コ: C-2-3)-(5)⑨⑩ 国: 必修6-ア-e, 総論Ⅲ-2-キ	今井 元
15	7月14日	生物学(14): 刺激の受容と反応(4)	一般感覚受容器と特殊感覚受容器 コ: C-2-3)-(4)①②④ 国: 必修6-ア-e, 総論Ⅲ-2-ク	〃
16	9月1日	生物学(15): 刺激の受容と反応(5)	特殊感覚器の受容と反応(1): 味覚・嗅覚の全体像と役割及び発生過程 コ: C-2-3)-(4)①②④ 国: 必修6-ア-e, 総論Ⅲ-2-ク, IV-3-ケ, シ	〃
17	9月1日	生物学(16): 刺激の受容と反応(6)	特殊感覚器の受容と反応(2): 平衡聴覚器の全体像と役割及び発生過程 コ: C-2-3)-(4)③ 国: 必修6-ア-e, 総論Ⅲ-2-ク	〃
18	9月8日	生物学(17): 刺激の受容と反応(7)	特殊感覚器の受容と反応(3): 視覚器の全体像と役割及び発生過程 コ: C-2-3)-(4)③ 国: 必修6-ア-e, 総論Ⅲ-2-ク	〃
19	9月8日	生物学(18): 刺激の受容と反応(8)	特殊感覚器の受容と反応(4): 焦点調節, 眼の保護, 眼球の動きの調節 コ: C-2-3)-(4)③ 国: 必修6-ア-e, 総論Ⅲ-2-ク	〃
20	9月15日	生物学(19): 体内環境の調節と恒常性の維持1	消化器系による調節(消化と吸収)(1): 消化器系の全体像と役割 コ: C-2-3)-(6)① 国: 必修6-ア-e, 総論Ⅲ-2-イ	〃
21	9月15日	生物学(20): 体内環境の調節と恒常性の維持2	消化器系による調節(消化と吸収)(2): 口腔・咽頭と機械的消化(咀嚼・嚥下・蠕動運動)の概要 コ: E-2-2)-①~⑥ 国: 必修6-イ-a~d, f, h, 総論IV-2-ア~シ	〃
22	9月29日	生物学(21): 体内環境の調節と恒常性の維持3	消化器系による調節(消化と吸収)(3): 消化管による吸収(管腔内消化と膜消化)のしくみ コ: C-2-3)-(6)① 国: 必修6-ア-e, 総論IV-3-ウ, オ, カ, シ, ソ	〃
23	9月29日	生物学(22): 体内環境の調節と恒常性の維持4	消化器系による調節(消化と吸収)(4): 外分泌腺(胃・肝臓・胆嚢・膵臓)による消化のしくみ コ: C-2-3)-(6)②③ 国: 必修6-ア-e, 総論Ⅲ-2-イ	〃
24	10月6日	生物学(23): 体内環境の調節と恒常性の維持5	呼吸器系による調節(1): 呼吸器系の全体像と役割 コ: C-2-3)-(7)① 国: 必修6-ア-e, 総論Ⅲ-2-ウ	〃
25	10月6日	生物学(24): 体内環境の調節と恒常性の維持6	呼吸器系による調節(2): 呼吸のしくみ コ: C-2-3)-(7)② 国: 必修6-ア-e, 総論Ⅲ-2-ウ	〃

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ:), 出題基準記号(国:)	
26	10月13日	生物学(25): 体内環境の調節と恒常性の維持7	内分泌器官による調節(1): 内分泌器官の全体像と役割及び発生過程 コ: C-2-3)-(8)① 国: 必修6-ア-e, 総論Ⅲ-2-ウ	今井 元
27	10月13日	生物学(26): 体内環境の調節と恒常性の維持8	内分泌器官による調節(2): 体温・血糖の調節 コ: C-2-3)-(3)③④, -(8)① 国: 必修6-ア-e, 総論Ⅲ-2-ケ	〃
28	10月20日	生物学(27): 体内環境の調節と恒常性の維持9	泌尿器系による調節(1): 泌尿器系の全体像と役割及び発生過程 コ: C-2-3)-(9)① 国: 必修6-ア-e, 総論Ⅲ-2-オ	〃
29	10月20日	生物学(28): 体内環境の調節と恒常性の維持10	泌尿器系による調節(2): 濾過・再吸収・浸透圧の調節 コ: C-2-3)-(8)①, -(9)②③ 国: 必修6-ア-e, 総論Ⅲ-2-オ, ケ	〃
30	10月27日	生物学(29): 体内環境の調節と恒常性の維持11	生殖器系の調節(1): 生殖器の全体像と役割 コ: C-2-2)① 国: 必修6-ア-e, 総論Ⅲ-2-カ	〃
31	10月27日	生物学(30): 体内環境の調節と恒常性の維持12	生殖器系の調節(2): 生殖器のホルモン調節機構 コ: C-2-2)① 国: 必修6-ア-e, 総論Ⅲ-2-カ	〃
32	11月10日	生物学(31): 体内環境の調節と恒常性の維持13	循環器系による調節(1): 循環器系の全体像と役割及び発生過程 コ: C-2-3)-(3)②⑤⑥ 国: 必修6-ア-e, 総論Ⅲ-2-エ	〃
33	11月10日	生物学(32): 体内環境の調節と恒常性の維持14	循環器系による調節(2): 心臓と血管の役割 コ: C-2-3)-(4)①③ 国: 必修6-ア-e, 総論Ⅲ-2-エ	〃
34	11月17日	生物学(33): 体内環境の調節と恒常性の維持15	循環器系による調節(3): 心拍数の調節(刺激伝導系と心周期・心音) コ: C-2-3)-(4)①④, -(8)① 国: 必修6-ア-e, 総論Ⅲ-2-エ, キ, ケ	〃
35	11月17日	生物学(34): 体内環境の調節と恒常性の維持16	循環器系の調節(4): 血圧の調節(神経性調節・液性調節) コ: C-2-3)-(4)①④, -(8)① 国: 必修6-ア-e, 総論Ⅲ-2-エ, キ, ケ	〃
36	11月24日	生物学(35): 体内環境の調節と恒常性の維持17	血液による調節(1): 血球の全体像および造血 コ: C-2-3)-(11)③ 国: 必修6-ア-e, 総論Ⅲ-1-カ, -3-ア	〃
37	11月24日	生物学(36): 体内環境の調節と恒常性の維持18	血液による調節(2): 赤血球・白血球・血小板の役割の概要 コ: C-2-3)-(11)②④ 国: 必修6-ア-e, 総論Ⅲ-1-カ, -3-ア	〃
38	12月1日	生物学(37): 体内環境の調節と恒常性の維持19	生体防御系(免疫系)による調節(1): 自然免疫と獲得免疫 コ: C-3-2)-(11)①~④ 国: 必修6-イ-e, f, 総論Ⅲ-3-ウ, エ	〃

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：), 出題基準記号(国：)	
39	12月1日	生物学(38)： 体内環境の調節と恒常性の維持 20	生体防御系(免疫系)による調節(2)：一次リンパ性器官・二次リンパ性器官 コ：C-2-3)-(11)①②③ 国：必修6-イ-e, f, 総論Ⅲ-3-ア～エ	今井 元
40	12月8日	生物学(39)： 生物の進化と多様性(1)	進化の法則 準コ：2-(3)	〃
41	12月8日	生物学(40)： 生物の進化と多様性(2)	ヒトへの進化 準コ：2-(3)	〃
42	12月15日	生物学(41)： 生物の進化と多様性(3)	顎の進化と系統発生 準コ：2-(3) コ：C-2-3)-(6)① 国：必修6-ア-e, 総論Ⅲ-2-ア	〃
43	12月15日	生物学(42)： 生物の進化と多様性(4)	歯の進化と系統発生 準コ-2-(3) コ：C-2-3)-(6)① 国：必修6-ア-e, 総論Ⅲ-2-ア	〃
44	12月22日	生物学(43)： 生態と行動(1)	内的プログラムによる行動 準コ：2-(4)	〃
45	12月22日	生物学(44)： 生態と行動(2)	知能行動 準コ：2-(4)	〃

生物学実験

科目責任者：今井 元

担当教員：今井 元, 前田 豊信, 鈴木 礼子, 古山 昭

1. 科目の概要

生命体の基本単位である細胞は、それぞれ様々な細胞小器官（オルガネラ）から構成されている。さらに、細胞が機能的な集団をなし組織系となり、その組織系の複合体が、器官となる。本科目においては、まず、動物愛護の精神（3R）を学んだ上で、植物、動物、微生物を材料とした顕微鏡観察から細胞の基本構造を把握する。また、カエルを材料とした肉眼解剖により、個体（脊椎動物）における各器官の構造と配列、さらには、基本的体制を把握する。また、これらの実験を通して、実験での心構えやルール、レポートの作成法等を学ぶ。

2. 一般目標

生命科学教育を受け、得た知識をさらに深めるため、実際に生命体の基本構造を視覚的に理解するとともに、今後も必要になる対象の観察方法を、顕微鏡操作や解剖により修得する。

3. 到達目標

- 1) 動物愛護の精神（3つのR）を理解し、実践できる。
- 2) 顕微鏡・解剖器具が適切に使用できる。
- 3) 観察のための試料を適切に準備できる。
- 4) 細胞構造の概要を説明できる。
- 5) 細胞分裂における染色体の動態を説明できる。
- 6) 胚の発生過程を説明できる。
- 7) 各器官系を適切に分類できる。
- 8) 実験結果を正確、かつ、適切にまとめることができる。

4. 講義形態

ガイダンスにおいて、実験を行う前に取り扱う生命体についての基礎知識及び実習手順を説明する。(30分～60分)

顕微鏡を適正に用いて、様々な細胞あるいはオルガネラ構造などを詳細に観察し、正しくスケッチする実習を行う。

器具を適正に用いて解剖を行い、各器官の構成や体内での配列などを詳細に観察し、スケッチする実習を行う。

5. 時間外学習

予習：シラバスを参考に実習に関する項目を調べ予習する。予習課題がある場合は、自習し提出する。(30分)

復習：実験観察で得られたスケッチやデータをもとにレポートを期日までに作成し提出する。

この際、結果を教科書等で得た情報をもとに解釈し、与えられた課題の意義を理解する。(120分)

その他：レポートを指定された期日を守って提出する。

6. 評価方法

基本的に提出したレポート（90%）により評価する。実習態度（10%）を加味する。

尚レポート提出期限に遅れた場合は評価点が減られる。65点以上を合格とする。

7. 教科書

配布プリント（下記の参考書をもとに構成されている）に沿って進める。また、学生が高校時代に使用した基礎生物学・生物学（又は、生物学Ⅰ・生物学Ⅱ）の教科書・参考書なども用いる。（学生は、各自持参すること。）

8. 参考書

基礎から学ぶ 生物学・細胞生物学 第2版：和田 勝 著 羊土社

もう一度読む数研の高校生物学 第1巻 第2巻：嶋田 正和（編）数研出版

カラー図解アメリカ版 大学生物学の教科書：D・サダヴァ 他著

人体の正常構造と機能 改訂2版：坂井 建雄, 河合克雅 総編集 日本医事新報社

9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授業内容	担当者
			コアカリ記号(コ:), 出題基準記号(国:)	
1		オリエンテーション		
2	A) 4月12日 B) 4月15日	動物愛護の精神(3R)について	実験目的・実験上の注意 動物愛護の精神(3R)について (講義及びDVDによる学習)	今井 元 前田 豊信 鈴木 礼子 古山 昭
3	A) 4月19日 B) 4月22日	顕微鏡の使い方	光学顕微鏡の操作法 準コ:2-(2) 国:必修6-ア-b, 総論Ⅲ-1-イ	〃
4	A) 4月26日 B) 5月6日	細胞小器官の観察Ⅰ	タマネギ鱗莖葉の表皮細胞の観察 コ:C-1-3)-① 国:必修6-ア-b, 総論Ⅲ-1-イ	〃
5	A) 5月9日 B) 5月13日	細胞小器官の観察Ⅱ	ラットの血球細胞の観察 コ:C-1-3)-① 国:必修6-ア-c, 総論Ⅲ-1-カ	〃
6	A) 5月10日 B) 5月16日	細胞小器官の観察Ⅲ	ユスリカの唾腺染色体の観察 コ:C-1-2)-① 国:必修6-ア-a, 総論Ⅲ-1-エ	〃
7	A) 5月17日 B) 5月20日	細胞小器官の観察Ⅳ	ルーメン原生動物の観察 コ:C-1-3)-①	〃
8	A) 5月24日 B) 5月27日	細胞小器官の観察Ⅴ	タマネギ根端細胞の体細胞分裂の観察 コ:C-1-3)-③ 国:必修6-ア-a, 総論Ⅲ-1-エ	〃
9	A) 5月31日 B) 6月3日	細胞小器官の観察Ⅵ	ネギの雄蕊における減数分裂の観察 コ:C-1-3)-③ 国:必修6-ア-a, 総論Ⅲ-1-エ	〃
10	A) 6月7日 B) 6月10日	個体発生	カエルの初期発生の観察(実体顕微鏡観察) 準コ:2-(3)	〃
11	A) 6月14日 B) 6月17日	各器官系の分類Ⅰ (カエルの解剖)	外形と消化器官系の観察 コ:C-2-3)-(6) 国:必修6-ア-e	〃
12	A) 6月21日 B) 6月24日	各器官系の分類Ⅱ (カエルの解剖)	心臓と泌尿生殖器系の観察 コ:C-2-3)-(3), (9) 国:必修6-ア-e	〃
13	A) 6月28日 B) 7月1日	各器官系の分類Ⅲ (カエルの解剖)	筋肉系の観察と神経筋標本の作成 コ:C-2-3)-(2), (5) 国:必修6-ア-e	〃
14	A) 7月5日 B) 7月8日	各器官系の分類Ⅳ (カエルの解剖)	頭骨の観察 コ:C-2-3)-(2) 国:必修6-ア-e	〃
15	A) 7月12日 B) 7月15日	歯の機能性の違い	さまざまな動物の頭骨と歯の観察 コ:C-2-3)-(6) 国:必修6-ウ-a	〃

体 育

科目責任者：藤本 千晶（非常勤講師）

担当教員：藤本 千晶（非常勤講師）

1. 科目の概要

超高齢化社会に突入した日本において、スポーツが健康・体力づくりに果たす役割は大きくなっている。しかし、スポーツ活動には時として障害が伴い、健康を害する場合もある。本授業では、これらスポーツの功罪を踏まえ種々のスポーツを体験し、健康で楽しくスポーツ活動を実践するための知識やマナーおよび態度を修得する。またスポーツを通じて共にプレーする仲間との強調を図り、コミュニケーションスキルを養う。

2. 一般目標

健康・体力づくりの手段としてのスポーツを実践するための知識やマナー、態度を修得するとともに、スポーツ活動を通じて共にプレーする仲間や対戦相手との協同・強調の精神を養う。

3. 到達目標

- 1) 種々のスポーツの競技特性、ルール、技術、戦略を理解し、ゲームを楽しむための能力を修得する。
- 2) スポーツマンシップに則ってスポーツを実践するためのマナー、コミュニケーションスキルを修得する。

4. 講義形態

体育の実技を中心に展開するが、必要に応じてスポーツに関する座学を実施する。

5. 時間外学習

予習：実施するスポーツの競技特性、ルール、技術、戦術、および歴史を理解する。(30分)

復習：授業で実施するスポーツ以外にも多くのスポーツを実践し、スポーツに対する見聞を広げる。
その他：

6. 評価方法

授業への出席状況およびスポーツ活動への積極的な取り組み（90%）、および種々のスポーツ技術の成熟度（10%）を総合的に評価し、65点以上を合格とする。

7. 教科書

なし

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
1		オリエンテーション		
2	(A)4月13日 (B)4月14日	オリエンテーション	履修方法, 授業計画, 諸注意	藤本 千晶
3	(A)4月20日 (B)4月21日	バスケットボール	ドリブル, パス, シュート, ミニゲーム	〃
4	(A)4月27日 (B)4月28日	バスケットボール	パス回し, ゲーム	〃
5	(A)5月11日 (B)5月12日	バレーボール	パス, トス, アタック, ミニゲーム	〃
6	(A)5月18日 (B)5月19日	バレーボール	サーブ, ゲーム	〃
7	(A)5月25日 (B)5月26日	卓球/バドミントン	基本的技術の練習, ゲーム	〃
8	(A)5月30日 (B)5月30日	卓球/バドミントン	基本的技術の練習, ゲーム	〃
9	(A)6月1日 (B)6月2日	テニス	グランドストローク, サーブ	〃
10	(A)6月8日 (B)6月9日	テニス	ゲーム(ダブルス)	〃
11	(A)6月15日 (B)6月16日	ハンドボール	ドリブル, パス, シュート, ミニゲーム	〃
12	(A)6月22日 (B)6月23日	ハンドボール	パス回し, ゲーム	〃
13	(A)6月29日 (B)6月30日	タッチラグビー	パス回し, ゲーム	〃
14	(A)7月6日 (B)7月7日	タッチラグビー	パス回し, ゲーム	〃
15	(A)7月13日 (B)7月14日	フットサル	ドリブル, パス, シュート, ミニゲーム	〃

統計数学

科目責任者：菊地 尚志

担当教員：菊地 尚志

1. 科目の概要

ある病気の発症の頻度に地域差がありそうだとか、あの病気には今回開発したこの新薬が有効だろう、と言った推測は医療の現場で頻繁に生じそうだ。経験や感覚に基づく判断が十分な場合もあるだろうが、より客観的な根拠に基づくやり方が統計学を用いた判断だ。統計学が教えてくれる「推定」や「検定」という技術がそれに当たる。授業ではこの技術の基本的な考え方を理解して初歩的でも現実に応用できることを目指す。その為に前期は、母集団と標本を結びつける確率分布について理解する。具体的には、一様分布、ベルヌイ分布、二項分布、正規分布を区別して理解する。後期に推定と検定の具体的な応用を習う。前期に学習した分布に加えてt-分布、 χ^2 -分布を覚え、平均値や分散についての推定と検定をできる様にする。

2. 一般目標

統計学の方法を理解して、歯科医師としての客観的、合理的な判断力を養う。

3. 到達目標

- 1) 統計資料を整理する。
- 2) 統計量を計算する。
- 3) 様々な確率分布を説明する。
- 4) 統計的推定ができる。
- 5) 統計的検定ができる。

4. 講義形態

板書を中心に授業を行います。授業をよく聞きノートをきちんと取って、さらに自分で主体的に「手を動かす」ことで理解を深めて行きましょう。

5. 時間外学習

予習：次回の授業内容を教科書で予習して授業に参加しましょう（20分）。

復習：授業した内容が理解されれば充分です。ノートを復習して毎回しっかり理解しましょう（30分）。

その他：

6. 評価方法

前期と後期のそれぞれの定期試験で成績を決定する。必要のある場合レポートなどの課題を課して、最大30%の範囲でその結果を成績に加え、65点以上を合格とする。

7. 教科書

統計解析がわかる 涌井良幸, 涌井貞美 著 技術評論社

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
1		オリエンテーション		
2	4月14日		授業への導入	菊地 尚志
3	4月21日	記述統計学	資料と統計量	〃
4	4月25日		度数分布表とヒストグラム	〃
5	4月28日		中央値, 最頻値, 平均値	〃
6	5月12日		分散と標準偏差	〃
7	5月19日		統計学の目的	〃
8	5月26日	確率論	様々な確率分布	〃
9	6月2日		標本空間と事象	〃
10	6月9日		確率分布の平均	〃
11	6月16日		確率分布の分散	〃
12	6月23日		二項分布 1	〃
13	6月30日		二項分布 2	〃
14	7月7日		正規分布と中心極限定理	〃
15	7月14日		問題演習	〃
16	9月6日	推測統計学	母集団と標本	〃
17	9月13日	統計学的推定	平均値の区間推定	〃
18	9月20日		母平均の推定(母分散既知)	〃
19	9月27日		母平均の推定, 演習	〃
20	10月4日		母平均の推定(母分散未知)	〃
21	10月11日		一般の母平均の推定	〃
22	10月18日		母比率の推定	〃
23	10月25日		母分散の推定, 演習	〃
24	11月1日	統計学的検定	検定の考え方	〃
25	11月8日		母平均の検定	〃
26	11月15日		母比率の検定	〃
27	11月22日		母平均の差の検定	〃
28	11月29日		臨床試験での検定	〃
29	12月6日		問題演習	〃
30	12月13日		演習の内容の確認	〃

情報リテラシー I

科目責任者：古山 昭

担当教員：古山 昭, 黒田 栄子

1. 科目の概要

情報化社会また、歯科医療においてもコンピュータを操作できる基礎能力は必須である。情報リテラシー I ではネット社会における適切な情報の取り扱い方法、ワードプロセッサによる文章の作成、表計算ソフトによる表とグラフの作成、プレゼンテーションソフトによるスライド作成、画像処理ソフトによる画像加工を習得する。

また、演習においては学生自ら作問を行う。将来、試験の様々な出題形式についての理解が深まり、コンピュータを使った試験形式にも早期から対応できる。

2. 一般目標

受講科目の重要事項について問題・解答を作成するために、インターネットを用いた情報収集、コンピュータの基本操作、主なソフトウェアの操作を学習する。

3. 到達目標

- 1) インターネットで適切な情報の取り扱いができる。
- 2) コンピュータを操作できる。
- 3) Wordを用いて文書を作成できる。
- 4) Excelを用いて表およびグラフを作成できる。
- 5) PowerPointを用いてプレゼンテーション用のスライドを作成できる。
- 6) GIMPを用いて画像加工ができる。
- 7) 課題に対しての問題作成とプレゼンテーションを行うことができる。

4. 講義形態

コンピュータの基本操作、ネット接続、ソフトウェアの操作を実際にコンピュータを使用して学習する。一学年主要科目の重要事項について問題作成を行う。

5. 時間外学習

予習：コンピュータ起動のための整備 (10分)。

復習：講義中に学習した内容は教科書と配付資料、ネット動画を用いて復習を行える (30分)

その他：疑問には担当教員のメールとオフィスアワーで質問ができる。

6. 評価方法

試験 (40%)、提出課題 (40%)、受講態度 (20%) により評価し、65点以上を合格とする。

7. 教科書

定平 誠 著「例題30+演習問題70でしっかり学ぶWord/Excel/Power Point標準テキスト」技術評論社
Noa出版編集部 編「情報倫理ハンドブック」Noa出版
「できるクリエイター GIMP2.8ナビ」インプレス

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
1		オリエンテーション		
2	4月13日	イントロダクション	授業の概要説明、コンピュータの起動と終了、基本操作、ネット接続、必要なソフトのインストール	古山 昭 黒田 栄子
3	4月20日	情報倫理	ウィルス対策、個人情報保護、著作権の保護	〃
4	4月27日	ワードプロセッサ	Wordの基本操作、文書作成	〃
5	5月11日	ワードプロセッサ	文書デザインとレイアウト 書式設定	〃
6	5月18日	ワードプロセッサ	オブジェクトの設定 図の応用	〃
7	5月23日	ワードプロセッサ	ラベルの作成	〃
8	5月25日	表計算	Excelの基本操作 表の作成	〃
9	6月1日	表計算	計算式の入力 関数の応用	〃
10	6月8日	表計算	グラフの作成	〃
11	6月15日	表計算	データの整理と検索	〃
12	6月22日	プレゼンテーション	Power Pointの基本操作 スライドの作成	〃
13	6月29日	プレゼンテーション	スライドのデザイン スライドの編集	〃
14	7月6日	プレゼンテーション	オブジェクトの応用	〃
15	7月13日	試 験	前期試験	〃
16	9月7日	プレゼンテーション	プレゼンテーションの実際(1)	〃
17	9月14日	プレゼンテーション	プレゼンテーションの実際(2)	〃
18	9月21日	プレゼンテーション	プレゼンテーションの実際(3)	〃
19	9月28日	プレゼンテーション	プレゼンテーションの実際(4)	〃
20	10月5日	プレゼンテーション	プレゼンテーションの実際(5)	〃
21	10月12日	画像処理	画像加工(1)	〃
22	10月19日	画像処理	画像加工(2)	〃
23	10月26日	画像処理	画像加工(3)	〃
24	11月2日	画像処理	画像加工(4)	〃
25	11月9日	画像処理	画像加工(5)	〃
26	11月16日	画像処理	画像加工(6)	〃
27	11月30日	試 験	後期試験	〃
28	12月7日	問題作成	問題製作	〃
29	12月14日	問題作成	問題のブラッシュアップ	〃
30	12月21日	問題作成	問題のプレゼンテーション	〃

英語 I

科目責任者：長屋左知子（非常勤講師）

担当教員：長屋左知子（非常勤講師）

1. 科目の概要

本授業では、学生が成長するための実践的な知識やスキルを英語の資料で読み、自分の意見を英作文することで英語力の向上を目指す。また、文法を集中的に学ぶことで基礎力の強化を図る。クラウドグループウェアを活用してインターネット上でグループを作成し情報交換をする予定である。

2. 一般目標

文献やインターネットの資料を、友人との協力、教員のサポート、そして日本語の関連資料をもとに自分で読むことができる。資料に関して、自分の意見を誰にでもわかるように平易な英語で簡潔に書くことができる。

3. 到達目標

- 1) 基本的な文法を理解し、活用できる。
- 2) 比較的平易な英語で自分の意見を書くことができる。
- 3) 英語の資料を自分で調べたりグループのメンバーと協力しながら読むことができる。
- 4) 歯科医学基本単語を覚える。

4. 講義形態

講義スタイルの他に、グループワークやペアワークをはじめとする相互学習形式を多く取り入れるので、積極的な授業参加が求められる。

5. 時間外学習

予習：特に必要なし

復習：授業で分からなかった表現や語彙を覚えること（30分）

その他：

6. 評価方法

Test（60%）、課題の提出状況および質的評価（20%）、授業の参加状況（20%）により評価し、65点以上を合格とする。

*Testは授業内に2回行い、定期テストは実施しない。

*授業の参加状況は授業に集中し、真面目に取り組んでいる姿勢を高く評価する。授業中に他用を行う、グループワークの進行を妨げる、加わらない、などの態度が見られる場合に減点とする。

7. 教科書

なし。配布資料によって授業を進めるので、2穴のファイルを用意すること。（第1回の授業で説明する）

辞書を持参すること。英和・和英・英英が入っている電子辞書が望ましい。

8. 参考書

授業の中で紹介する。

9. 授業内容と日程

回	月日	タイトル	授業内容	担当者
1		オリエンテーション		
2	4月12日	Introduction	Introduction	長屋左知子
3	4月18日	Active listening (1)	・ Vocabulary building ・ Reading comprehension	〃
4	4月19日	Active listening (2)	・ Group discussion	〃
5	4月26日	Active listening (3)	・ Writing : Active listening	〃
6	5月10日	Active listening (4)	・ Practice : Active listening	〃
7	5月17日	Grammar (1)	小テスト (1)	〃
8	5月24日	Grammar (2)	小テスト (2)	〃
9	5月31日	Grammar (3)	小テスト (3)	〃
10	6月7日	Grammar (4)	小テスト (4)	〃
11	6月14日	Review	第1回から第9回までを復習する	〃
12	6月21日	Test 1	Review Test	〃
13	6月28日	Reflection	テストの解説と前期の振り返り	〃
14	7月5日	DVD (1)	映画鑑賞から英語を学ぶ	〃
15	7月12日	DVD (2)	映画鑑賞から英語を学ぶ	〃
16	9月6日	Assertion skills (1)	・ Vocabulary building ・ Reading comprehension	〃
17	9月13日	Assertion skills (2)	・ Group discussion	〃
18	9月20日	Assertion skills (3)	・ Writing : Assertion skills	〃
19	9月27日	Assertion skills (4)	・ Practice : Assertion skills	〃
20	10月4日	How to learn (1)	・ Vocabulary building ・ Reading comprehension	〃
21	10月11日	How to learn (2)	・ Group discussion	〃
22	10月18日	How to learn (3)	・ Writing : How to learn	〃
23	10月25日	How to learn (4)	・ Reflection : How to learn	〃
24	11月1日	Grammar (5)	小テスト (5)	〃
25	11月8日	Grammar (6)	小テスト (6)	〃
26	11月15日	Grammar (7)	小テスト (7)	〃
27	11月22日	Test 2	Review Test	〃
28	11月29日	Reflection	テストの解説と後期の振り返り	〃
29	12月6日	DVD (3)	映画鑑賞から英語を学ぶ	〃
30	12月13日	DVD (4)	映画鑑賞から英語を学ぶ	〃

英 会 話

科目責任者：長峯 英樹（非常勤講師）

担当教員：長峯 英樹（非常勤講師）

1. 科目の概要

本講義の目的は、国内外で論争となっている様々な社会問題の背景知識について英語で学び、論理的に自分の意見を述べる能力を身につけることである。

基礎的な語彙や時事表現を学ぶことはもちろん、サイトトランスレーション（英語の語順で文頭から理解する）トレーニングを行うことにより、英文読解のスピードと精度を向上させる。そして、モデルとなる意見を覚えることで発信力を向上させる。

2. 一般目標

英語の理解スピードと精度を向上させるために不可欠な基礎的な語彙と文法を復習する。

自分の意見を述べるときに役立つ表現を数多く覚える。

3. 到達目標

- 1) 国内外の様々な社会問題の背景知識を英語で学ぶことにより、語彙・構文、時事表現を覚える
- 2) 基礎的な文法を復習しながら、表現方法の細かなニュアンスを理解できるようにする
- 3) 論争となっているテーマに関する賛成・反対の争点を英語で理解できるようにする
- 4) モデルとなる会話例をできるだけ覚え、自分の意見を英語で論理的かつ効果的に述べるスキルを身につける
- 5) 大手メディアで報道される海外の時事ニュースに慣れる

4. 講義形態

基礎的な英語力向上のために、まずは英文の音読とサイトトランスレーションを丁寧に行うことにより頻出語彙や時事表現、基礎文法を学ぶ。次に、テーマに対する賛否とその根拠の会話例を覚える。

5. 時間外学習

予 習：あらかじめ英文を読んでくること。その際、音声聞き、発音をしっかり確認しておくこと。（30分）

復 習：講義で学んだ表現や語彙を何度も音読すること。（30分）

その他：映画や雑誌など、日常的にできるだけ多く英語に触れるよう心がけること。

6. 評価方法

Review Test（80%）、出席および授業態度・貢献度（20%）により評価し、65点以上を合格とする。

7. 教科書

植田一三、Pros and Cons—Discussing Today's Controversial Issues、センゲージ・ラーニング

8. 参考書

特になし。必要に応じてプリントなどを配布する。

9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
1		オリエンテーション		
2	4月12日		インターネット規制は必要か？（1）	長峯 英樹
3	4月18日		インターネット規制は必要か？（2）	〃
4	4月19日		オリンピック開催地になることは栄誉？負担？（1）	〃
5	4月26日		オリンピック開催地になることは栄誉？負担？（2）	〃
6	5月10日		Review Test 1	〃
7	5月17日		解説と応用(1)	〃
8	5月24日		解説と応用(2)	〃
9	5月31日		原子力発電はクリーンエネルギー？脅威？（1）	〃
10	6月7日		原子力発電はクリーンエネルギー？脅威？（2）	〃
11	6月14日		公共の場では分煙？全面禁煙？（1）	〃
12	6月21日		公共の場では分煙？全面禁煙？（2）	〃
13	6月28日		Review Test 2	〃
14	7月5日		解説と応用(1)	〃
15	7月12日		解説と応用(2)	〃
16	9月6日		学校での体罰を許容するべきか？（1）	〃
17	9月13日		学校での体罰を許容するべきか？（2）	〃
18	9月20日		能力給？年功序列？（1）	〃
19	9月27日		能力給？年功序列？（2）	〃
20	10月4日		Review Test 3	〃
21	10月11日		解説と応用(1)	〃
22	10月18日		解説と応用(2)	〃
23	10月25日		TPPに賛成？反対？（1）	〃
24	11月1日		TPPに賛成？反対？（2）	〃
25	11月8日		憲法9条の擁護？反対？（1）	〃
26	11月15日		憲法9条の擁護？反対？（2）	〃
27	11月22日		死刑制度の存続？基本的人権の擁護？	〃
28	11月29日		Review Test 4	〃
29	12月6日		解説と応用(1)	〃
30	12月13日		解説と応用(2)	〃

歯科医療概論

科目責任者：大野 敬

担当教員：大野 敬

1. 科目の概要

歯科医師を目指して歯学部に入学者として、歯科医学を学び歯科医療を行う上で必要な心構えと6年間の学習の目標を設定することは重要である。また歯科医療ではどのようなことを行うのかを理解し、早期に歯科医師になるための意識を持たせることが必要である。

2. 一般目標

歯学部学生としての心構えと目標を設定するために、歯科医学と歯科医療の概要を理解する。

3. 到達目標

- 1) 歯科医師の使命、魅力について説明する。
- 2) 歯科医学教育について説明する。
- 3) 歯科学生に必要な学習態度、学習方法を説明する。
- 4) 歯科医師として求められる基本的な資質について説明する。
- 5) 歯科医療と社会との関わりについて説明する。

4. 講義形態

- 1) 講義をしっかりと聴く。
- 2) 重要と思う事項はメモする。
- 3) 講義内容を把握する。
- 4) 講義内容を整理する。
- 5) 整理した内容を復習する。
- 6) 疑問点について質問する。

5. 時間外学習

予習：事前に配布された資料を熟読しておく。

復習：配布された資料をもとに各自ノートを作成する。

その他：

6. 評価方法

講義内容について、時間内に講義した内容について形成的評価（レポート）を行い、形成的評価の総和を形成的評価の回数で割り、65点以上を合格とする。定期試験は行わない。

7. 教科書

なし

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ:), 出題基準記号(国:)	
1		オリエンテーション		
2	4月13日	序説	本学の理念と歴史	大野 敬
3	4月20日	基本事項1	医の倫理と歯科医療の意義 コ:A-1.2 国:必修-1-ア	〃
4	4月27日	基本事項2	歯科医師の責務 コ:A-3 国:必修-1-イ	〃
5	5月11日	基本事項3	インフォームドコンセント コ:A-4 国:必修-1-イ	〃
6	5月18日	対人関係能力1	歯科医師に必要なコミュニケーション コ:A-7-1) 国:必修-8-ア.イ	〃
7	5月23日	対人関係能力2	歯科における医療面接 コ:A-7-2) 国:必修-8-ウ	〃
8	5月25日	医療安全1	歯科医療における安全性の確保 コ:A-5-1) 国:必修-4-ア	〃
9	6月1日	医療安全2	医療上の事故等への対処と予防 コ:A-5-2) 国:必修-4-イ	〃
10	6月8日	医療安全3	医療従事者の健康と安全 コ:A-5-3) 国:必修-4-イ	〃
11	6月15日	チーム歯科医療1	歯科における医療連携 コ:A-7-3) 国:必修-16-ア.イ	〃
12	6月22日	チーム歯科医療2	歯科医師の社会貢献 コ:B-2-2)⑧⑩ 国:必修-16-オ	〃
13	6月29日	学習方法	歯学教育における学習法	〃
14	7月6日	生涯学習	歯科医師の生涯学習 コ:A-6-1) 国:必修-17-イ	〃
15	7月13日	まとめ	歯科医療の未来	〃

基礎歯学概論

科目責任者：伊東 博司

担当教員：宇佐美晶信，渡邊 弘樹，清浦 有祐，伊東 博司，廣瀬 公治，花岡 洋一，岡田 英俊，斉藤 博，中川 敏浩，安部 仁晴，前田 豊信，鈴木 礼子，石田 喜紀，加藤 靖正，大須賀謙二，古山 昭，遊佐 淳子，櫻井 裕子，大橋 明石，鈴木 厚子

1. 科目の概要

基礎歯学概論では、歯科医師として身に付けなければならない知識を修得する上で、専門基礎科目がどのようなものであり、またその体系化した知識が歯科医学においてどのような位置を占めるかを学び、臨床科目との関連性について理解する。

2. 一般目標

歯学部における専門科目を十分に理解するために、その基礎となる知識の習得を目指す。数学、物理学、化学、生物学をベースとした基礎的知識の習得ならびに応用力の実践を目指す。

3. 到達目標

- 1) 基礎歯学を学ぶ意義を説明できる。
- 2) 感覚、運動及び自律機能の特徴とそれらの調節系について説明できる。
- 3) 生体内の物質代謝を概説できる。
- 4) 微生物感染に対するヒトの防御システムを説明できる。
- 5) 薬についての基本的な知識を説明できる。
- 6) 公衆衛生と予防歯科の概念を説明できる。
- 7) 法医学、法歯学を通じた歯科医師の社会的役割を説明できる。

4. 講義形態

講義を主体として、適宜、プリントやスライドを用いた視覚的素材を活用しながら進めていく。

5. 時間外学習

予習：予習は不要であるが、毎回授業後に小テストを実施するか、レポートを課するので、よく授業を聞いて理解すること。

復習：小テストの結果または返却レポートをチェックし、疑問点はオフィスアワーを活用して解決する。(10分)

6. 評価方法

授業内容について授業終了時に実施する小テストまたは提出レポート (80%)、出席および授業態度・貢献度 (20%) により評価し、65点以上を合格とする。

7. 教科書

なし

8. 参考書

- 佐藤喜宣「臨床法医学テキスト」中外医学社 2012
 岡崎好秀「謎解き口腔機能学」クインテッセンス出版 2003
 藤田恒夫「入門人体解剖学」第5版 南江堂 2011
 佐藤達夫(訳)「あたらしい人体解剖学アトラス」第1版 MEDSi 2009
 口腔微生物学-感染と免疫- 第5版 学建書院 2015
 スタンダード生化学・口腔生化学第2版(学建書院)、口腔生化学第5版(医歯薬出版)

9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容		担 当 者
			コアカリ記号(コ:), 出題基準記号(国:)		
1		オリエンテーション			
2	4月15日	口腔解剖学	多生歯性が二生歯性へ変わる理由 コ：E-3-1)-①⑤ 国：総論IV-4-ア, オ, キ ～ケ		斉藤 博
3	4月22日	口腔の解剖	口腔周囲の基本構造 コ：E-2-1)① 国：総論IV-2-ア～オ		宇佐美晶信
4	5月6日	摂食嚥下に関連する解剖	摂食嚥下に関連する構造と比較解剖 コ：C-2-3)-(6)① 国：総論IV-2-カ～シ		〃
5	5月13日	骨はいきている	骨組織の構造と組織学的特徴 コ：C-2-3)-(2)② 国：必修6-ア-c 総論Ⅲ -1-カ, -2-ア		渡邊 弘樹
6	5月16日	個体発生と顔面の形成	受精、胚葉・鰓弓の組織発生と顔面・顎の発生 コ：C-2-2)①, E-2-3)①②③ 国：総論V-1- ア, イ -3-ア, イ		中川 敏浩
7	5月20日	歯と歯周組織	歯と歯周組織の構造と組織学的特徴 コ：E-3-1)③④⑤ 国：必修6-ウ-c, d 総論 IV-4-ウ～ケ		安部 仁晴
8	5月27日	興奮性組織の生理	神経、筋の作動原理と口腔における機能につ いて コ：C-2-3)-(2), (4), (5) 国：総論Ⅲ-1-(キ), (ク)		古山 昭
9	6月3日	体液の循環	心臓と血管のはたらきについて コ：C-2-3)-(3)①～⑥ 国：総論Ⅲ-2-エ		大須賀謙二
10	6月10日	遺伝子工学	遺伝子の検出方法(PCR法, サザンブロット法, ノーザンブロット法) コ：C-1-2)①～④ 国：必修6-アa		前田 豊信
11	6月17日	糖質 I	ビタミン コ：C-1-1)⑤ 国：必修6-アc		加藤 靖正
12	6月24日	糖質 II	甘味料と齶蝕 コ：E-3-2)① 国：必修14-1a		鈴木 厚子
13	7月1日	歯科材料の種類	歯科材料の概要と分類 コ：D-1-① 国：各論XI-1-ア～エ		岡田 英俊
14	7月8日	有機材料の特性	有機材料の歯科応用と特性 コ：D-1-① 国：各論XI-1-ア～エ		〃
15	7月15日	無機・金属材料の特性	無機・金属材料の歯科応用と特性 コ：D-1-① 国：各論XI-1-ア～エ		石田 喜紀
16	9月2日	感染と免疫1	感染症の現況と今後の展開 コ：C-3-1)-(5), ⑥ 国：総論VI-6-ア～エ		清浦 有祐
17	9月9日	感染と免疫2	微生物感染に対するヒトの防御システム コ：C-3-2)-①, ②, ③ 国：総論Ⅲ-3-ア～エ		〃

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ:), 出題基準記号(国:)	
18	9月16日	感染と免疫3	口腔微生物と全身疾患 コ:C-3-1)-② 国:必修6-エa, d	清浦 有祐
19	9月23日	薬理学入門1	薬とは何か コ:C-5-1)-① 国:必修-15-ヒ-k, 総論X-9-ツ	鈴木 礼子
20	9月30日	薬理学入門2	薬の生体内での運命 コ:C-5-3)-② 国:必修-15-ヒ-cd, 総論X-9-ウ, エ	〃
21	10月7日	薬理学入門3	薬の作用部位と作用機序 コ:C-5-2)-③ 国:必修-15-ヒ-e, 総論X-9-オ	〃
22	10月14日	病理学とは	病理学とはいかなる学問であるか医療における病理学の役割	伊東 博司
23	10月21日	歯周病の病理学	歯周病とはどのような病気であるかを概説する コ:E-3-2)④ 国:総論VI-11-イ	櫻井 裕子
24	10月28日	生検とは	医療の場における生検の役割 国:総論IX-4-キ	遊佐 淳子
25	11月4日	環境と健康	自然環境と健康との関連 コ:B-2-4)①② 国:総論II-13ア～コ	廣瀬 公治
26	11月11日	歯科疾患とその予防	齲蝕の成り立ちとその予防 コ:B-3-2)①② 国:各論I-1ア～キ	大橋 明石
27	11月18日	社会と歯科医療	日本の医療制度 コ:B-2-2)①② 国:総論I-6ア～ウ	廣瀬 公治
28	11月25日	法歯学とは1	社会における歯科医の役割 コ:B-2-3)①② 国:総論I-5-ウ	花岡 洋一
29	12月2日	法歯学とは2	歯科的個人識別 コ:B-2-3)①② 国:総論I-5-ウ	〃
30	12月9日	まとめ	歯科医師として基礎歯学を学ぶ意義 コ:C-2-3) 国:総論III-2-ア～チ	伊東 博司

臨床歯学概論

科目責任者：杉田 俊博

担当教員：山田 嘉重, 菊井 徹哉, 木村 裕一, 高橋 慶壮, 寺田 善博, 高田 訓,
山森 徹雄, 山崎 信也, 福井 和徳, 島村 和宏, 原田 卓哉, 関根 秀志,
鈴木 史彦, 佐々木重夫, 馬場 優, 杉田 俊博

1. 科目の概要

歯科医師を目指して歯学部に入學した直後に歯科医療の現場を知ること、これから6年間の勉学の目標を設定するうえで重要なことである。歯科医師に求められる資質には、①社会人として信頼できること、②歯科医療に対する知識・技能を有すること、③保健に関する助言・援助ができること、④生涯にわたり研修意欲を持ち続けること、⑤患者に対して十分な説明を行い、同意を得るといった考え方を尊重すること、などがある。

臨床歯学概論はこのような要件に応える第一歩として、診療室で実際に行われている治療や診療室の環境などを視覚的に教育する科目である。関連する科目として、歯科医学概論、歯科医学演習があり、これらと総合して早期に歯科医学・歯科医療に対する心構えを身に付けて欲しい。

2. 一般目標

歯科医学・歯科医療を学ぶ目標を設定するために、先進的かつ近未来の歯科医療の現場を視覚的に理解する。

3. 到達目標

- 1) 歯科の臨床を視て今後の学習の目標を見出す。
- 2) 歯科医師として相応しい身だしなみを述べる。
- 3) 歯科の臨床で相応しい態度を述べる。
- 4) 歯科診療に従事している者の職種を説明する。
- 5) 歯科外来にある診療器具等の室内配置を説明する。
- 6) 歯科治療方法の種類を列挙する。
- 7) 患者に対する歯科医師としての基本的態度を説明する。

4. 講義形態

基本的には実習形式で実践する。当日、科目により担当者の指示がある場合がある。

5. 時間外学習

予習：シラバスを参考に歯科診療を考える。

復習：実際の歯科臨床での診療をシミュレーションする。

その他：

6. 評価方法

講義の最後に講義内容レポート記載を義務付け、評価の対象とする。

出席および授業態度・貢献度を60%、レポートを40%とし、合計の65点以上を合格とする。

7. 教科書

なし

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ:), 出題基準記号(国:)	
1		オリエンテーション		
2	(A)4月12日 (B)4月15日	科目の説明	基本的診療技能 コ：E-1-1) 国：必9-ア～エ, 10-イ	杉田 俊博
3	(A)4月19日 (B)4月22日	歯冠修復治療	齶蝕と硬組織疾患の診断と治療 コ：E-3-3)-(1) 国：各論Ⅲ-2-ア, イ	山田 嘉重 菊井 徹哉
4	(A)4月26日 (B)5月6日	歯肉治療	歯髄・根尖歯周組織疾患の診断と治療 コ：E-3-3)-(2) 国：各論Ⅲ-5-イ, ウ	木村 裕一
5	(B)5月9日 (A)5月10日	冠橋義歯治療	冠橋義歯(クラウン・ブリッジ)による治療 コ：E-3-4)-(1) 国：各論Ⅳ-4-ア	寺田 善博
6	(B)5月13日 (A)5月16日	歯周治療	歯周疾患の診断と治療 コ：E-3-3)-(3) 国：各論Ⅲ-8-ア, 9-イ	高橋 慶壮
7	(A)5月17日 (B)5月20日	口腔外科治療	小手術の基本 コ：E-1-4) 国：総論Ⅹ-4-ア	高田 訓
8	(A)5月24日 (B)5月27日	有床義歯治療	可撤性義歯による治療 コ：E-3-4)-(2) 国：各論Ⅳ-5-ア, 6-イ	山森 徹雄
9	(A)5月31日 (B)6月3日	歯科麻酔治療	歯科麻酔の基本 コ：E-1-3) 国：総論Ⅸ-4	山崎 信也
10	(A)6月7日 (B)6月10日	歯科矯正治療	不正咬合の治療 コ：E-4-1) 国：各論Ⅰ-3-ア	福井 和徳
11	(A)6月14日 (B)6月17日	小児歯科治療	小児の歯科治療 コ：E-4-2) 国：各論Ⅲ-4-ア	島村 和宏
12	(A)6月21日 (B)6月24日	歯科放射線治療	画像検査 コ：E-1-2) 国：各論Ⅸ-2-ア	原田 卓哉
13	(A)6月28日 (B)7月1日	インプラント治療	デンタルインプラント治療 コ：E-3-4)-(3) 国：各論Ⅴ-8-ウ	関根 秀志
14	(A)7月5日 (B)7月8日	摂食・嚥下治療	高齢者、障害者の歯科治療 コ：E-4-3, 4) 国：Ⅵ-1, 2, 3, 総論Ⅷ-3-ア	鈴木 史彦 佐々木重夫
15	(A)7月12日 (B)7月15日	歯科と医学の知識	歯科医師に必要な医学知識 コ：E-4-6) 国：総論Ⅷ-1-ウ	馬場 優

歯科医学演習

科目責任者：杉田 俊博

担当教員：山田 嘉重, 菊井 徹哉, 木村 裕一, 高橋 慶壮, 寺田 善博, 山森 徹雄,
高田 訓, 島村 和宏, 福井 和徳, 山崎 信也, 原田 卓哉, 馬場 優,
佐々木重夫, 清野 晃孝, 濱田 智弘, 杉田 俊博

1. 科目の概要

歯科医学および歯科医療を学ぶ者にとって、歯科医学と歯科医療における知識、歯科医療の技術および歯科医師としての態度を習得することは必須の要件である。歯科医学と歯科医療の知識は一般教養科目、基礎歯科医学、社会歯科学および臨床歯科医学の各科目を通して修得し、歯科医療の技術と歯科医師としての態度は、臨床歯科医学の模型実習と臨床実習や社会歯科学と倫理学等を通して学習する。このなかで、技術の習得は歯科医療にとって重要であり、歯科医学で学んだ理論を実践するうえで不可欠である。

歯科医学演習は、歯科医療の技術を学ぶために必要な基礎技術の訓練とともに、これから6年間にわたって歯科医学を学習する動機付けとして位置づけられる科目である。学習の方法には、手指の動作を訓練するために日常生活のなかから選ばれた身近なテーマや、臨床歯科医学の教育内容と密接な「道具と手」に係わる実習内容が組み込まれている。

教育スタッフは、本学の臨床系科目を担当する講座から選出された教員によって組織されている。楽しみながら手指の動作や歯科医療に使用する器具とその使い方等を学び、歯科学生としての自覚を芽生えさせて欲しい。

2. 一般目標

歯科医療の技術を学ぶために、基礎技術訓練に係わる知識、技能および態度を習得する。

3. 到達目標

- 1) 使用する器具・機材の名称を挙げる。
- 2) 使用目的に相応しい器具の使用法を実践する。
- 3) 外科手術後の縫合を想定した糸結びを実践する。
- 4) エックス線の撮影・画像処理をする。
- 5) 石膏棒に歯冠を彫刻する。
- 6) 歯ブラシの正しい磨き方を実践する。
- 7) ワイヤーを屈曲する。
- 8) 治療法に相応しい形を述べる。
- 9) 臨床実習の詳細を知る。
- 10) バイタルサインを挙げる。
- 11) 救急蘇生法を実践する。
- 12) 手洗いを実践する。

4. 講義形態

基本的には実習形式で実践する。当日、科目により担当者の指示がある場合がある。

5. 時間外学習

予習：シラバスを参考に歯科診療を考える。(演習なので白衣を着用する。)

復習：各演習項目と歯科医療の関係をシミュレーションする。

その他：

6. 評価方法

出席および授業態度・貢献度を60%、技能力を40%とし、合計の65点以上を合格とする。

7. 教科書

なし

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：), 出題基準記号(国：)	
1		オリエンテーション		
2	(A)4月12日 (B)4月15日	臨床実習	臨床実習の目的と概要を理解する コ：E-1-1) 国：必9-ア～エ, 10-イ	杉田 俊博
	(A)4月19日 (B)4月22日	保存修復学	歯の治療(窩洞の形態)を模倣する コ：E-3-3)-(1) 国：各論Ⅲ-2-ア, イ	
4	(A)4月26日 (B)5月6日	歯内療法学	根管治療器具の基本操作を実践する コ：E-3-3)-(2) 国：各論Ⅲ-5-イ, ウ	木村 裕一
	(B)5月9日 (A)5月10日	冠橋義歯学	彫刻刀を用いて石膏棒を削る コ：E-3-4)-(1) 国：各論Ⅳ-4-ア	
6	(B)5月13日 (A)5月16日	歯周病学	歯ブラシの使い方、磨き方を実践する コ：E-3-3)-(3) 国：各論Ⅲ-8-ア, 9-イ	高橋 慶壮
	(A)5月17日 (B)5月20日	口腔外科学	手術器材を知り、縫合を体験する コ：E-1-4) 国：総論ⅩⅢ-4-ア	
8	(A)5月24日 (B)5月27日	有床義歯補綴学	クラスプワイヤーの屈曲を体験する コ：E-3-4)-(2) 国：各論Ⅳ-5-ア, 6-イ	山森 徹雄
	(A)5月31日 (B)6月3日	歯科麻酔学	マネキンで1次救命処置(BLS)を実践する	
10	(A)6月7日 (B)6月10日	歯科矯正学	自己顔の形態を評価する コ：E-4-1) 国：各論Ⅰ-3-ア	福井 和徳
	(A)6月14日 (B)6月17日	小児歯科学	小児口腔の特徴を理解し、器具操作を実践する コ：E-4-2) 国：各論Ⅲ-4-ア	
12	(A)6月21日 (B)6月24日	歯科放射線学	エックス線の撮影・画像処理をする コ：E-1-2) 国：各論Ⅸ-2-ア	原田 卓哉
	(A)6月28日 (B)7月1日	臨床総合演習①	頭頸部の診察と口腔内の状態を記録する コ：F-2-2, 3) 国：必修-10-エ, カ	
14	(A)7月5日 (B)7月8日	臨床総合演習②	手指の消毒を実地する コ：F-1-4) 国：必修-15-ク	杉田 俊博 濱田 智弘
	(A)7月12日 (B)7月15日	隣接医学	バイタルサインを実施する コ：E-1-3)-(1) 国：総論Ⅷ-1-ウ	

歯科医療人間学 I

科目責任者：瀬川 洋

担当教員：瀬川 洋, 中川 敏浩, 鈴木 敏城, 唐沢 明, 清浦 有祐,
吉田いくよ (非常勤講師), 鈴木 俊子 (非常勤講師)

1. 科目の概要

歯科医療人間学 (Dental Practice Human Science) は、本学歯学部目的である「高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師の養成」を実践する学問であり、高度専門職業人 (プロフェッショナル) としての歯科医師である前に社会人としての素養、教養および社会適応能力を高揚し、自らのホスピタリティマインドに加えて、患者中心の医療を全人的に捉えるため、身体面、心理面、社会面、倫理面の各要素を総合的かつ包括的に理解し、「歯科医療の安全・安心・信頼の文化」を醸成することにある。

2. 一般目標

人間性豊かな優れた歯科医師となるために、大学で学ぶ目的を明確化し、歯学医療現場にふれ、基本的なコミュニケーションや日常習慣の重要性を認識する態度、知識および技能を修得する。

3. 到達目標

- 1) 社会および歯科医療でのルールを実施する。
- 2) 周囲の人への共感的態度を表現する。
- 3) 日常における挨拶を自然に表現する。
- 4) 基本的な言葉で基本的なコミュニケーションをする。

4. 講義形態

グループおよびペアによる学修を行う。授業形態はプリントを配布し、レポート提出形式をとることもあるので受動的な学習でなく、必ず参加が義務づけられる能動的学習である。

5. 時間外学習

予習：シラバスで内容を確認する。また、人と接する時は状況を把握し、意識をして対応することを日頃から心がける。(30分)

復習：プリント学修や実演したことを自然に実践できるように日々訓練をする。

6. 評価方法

各講義演習で行われた小テスト、視覚による評価、レポート、見学評価をすべて100点満点換算して点数を算出する (①)。最終日に行われる各コースの形成的評価をすべて100点満点に換算して点数を算出する (②)。①に0.5を乗じ (③)、②に0.5を乗じ (④)、③と④を加算して65点以上を合格とする。

7. 教科書

日本学術振興会編 「科学の健全な発展のためにー誠実な科学者の心得ー」 テキスト版 日本学術振興会 2015年

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ:), 出題基準記号(国:)	
1	9月5日 (2限)	1-A, B オリエンテーション	医療コミュニケーション学の目的と概要を解説する。 コ:A-7-1)-①②③ 国:必修-8-1-a ~ f	瀬川 洋 中川 敏浩 鈴木 敏城 唐沢 明 吉田いくよ 鈴木 俊子
2	9月5日 (3限)	1-A, B 文献情報検索	正しく情報収集するために情報・文献検索を行うとともにそれらを適切に取り扱う。 コ:A-6-2)-③ 国:必修-8-a	瀬川 洋 中川 敏浩
3	9月12日	1-A パフォーマンス学総論①	自分をどのように表現するかを実感する。 コ:A-7-1)-①②③ 国:必修-8-1-a ~ f	吉田いくよ 鈴木 俊子 中川 敏浩
4	9月12日	1-B コミュニケーションの基礎①	コミュニケーションに必要なことを演習する。 コ:A-7-1)-①②③ 国:必修-8-1-a ~ f	唐沢 明
5	9月26日	1-A コミュニケーションの基礎②	コミュニケーションに必要なことを演習する。 コ:A-7-1)-①②③ 国:必修-8-1-a ~ f	〃
6	9月26日	1-B パフォーマンス学総論②	自分をどのように表現するかを実感する。 コ:A-7-1)-①②③ 国:必修-8-1-a ~ f	吉田いくよ 鈴木 俊子 中川 敏浩
7	10月3日	1-A あいさつについて①	あいさつの重要性を実感する。 コ:A-7-1)-①②③ 国:必修-8-1-a ~ f	〃
8	10月3日	1-B 医療と敬語について①	医学用語と一般用語の関連 コ:A-7-1)-①②③ 国:必修-8-1-a ~ f	唐沢 明
9	10月17日	1-A 医療と敬語について②	医学用語と一般用語の関連 コ:A-7-1)-①②③ 国:必修-8-1-a ~ f	吉田いくよ 鈴木 俊子 中川 敏浩
10	10月17日	1-B あいさつについて②	あいさつの重要性を実感する。 コ:A-7-1)-①②③ 国:必修-8-1-a ~ f	唐沢 明
11	10月24日	1-A 医療現場でのあいさつ①	信頼関係の重要性について演習する。 コ:A-7-1)-①②③ 国:必修-8-1-a ~ f	吉田いくよ 鈴木 俊子 中川 敏浩
12	10月24日	1-B 医療人の怨・態度・傾聴力①	痛みに対する歯科医師の態度表現を会得する。 コ:A-7-1)-①②③ 国:必修-8-1-a ~ f	唐沢 明
13	10月31日	1-A 医療人の怨・態度・傾聴力②	痛みに対する歯科医師の態度表現を会得する。 コ:A-7-1)-①②③ 国:必修-8-1-a ~ f	〃
14	10月31日	1-B 医療現場でのあいさつ②	信頼関係の重要性について演習する。 コ:A-7-1)-①②③ 国:必修-8-1-a ~ f	吉田いくよ 鈴木 俊子 中川 敏浩
15	11月7日	1-A 表現・自分を知る I ①	自分をどのように印象づけて表現することを演習する。 コ:A-7-1)-①②③ 国:必修-8-1-a ~ f	〃

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ:), 出題基準記号(国:)	
16	11月7日	1-B 歯科診療とアサーション①	患者の訴えを、ソフトな言葉で会話する。 コ:A-7-1)-①②③ 国:必修-8-イ-a ~ f	唐沢 明
17	11月14日	1-A 歯科診療とアサーション②	自分をどのように印象づけて表現することを演習する。 コ:A-7-1)-①②③ 国:必修-8-イ-a ~ f	〃
18	11月14日	1-B 表現・自分を知る I ②	自分をどのように印象づけて表現することを演習する。 コ:A-7-1)-①②③ 国:必修-8-イ-a ~ f	吉田いくよ 鈴木 俊子 中川 敏浩
19	11月21日 (2限)	1-A, B 歯科用語から 1	初めて歯科専門用語に触れて、その内容を検索する。 コ:A-6-1)-① 国:必修-14-イ-a ~ f	瀬川 洋 中川 敏浩
20	11月21日 (3限)	1-A, B 歯科用語から 1, 発表	歯科専門用語の内容を理解して発表する。 コ:A-6-1)-① 国:必修-14-イ-a ~ f	〃
21	11月28日 (2限)	1-A, B 歯科用語から 2	初めて歯科専門用語に触れて、その内容を検索する。 コ:A-6-1)-① 国:必修-14-イ-a ~ f	〃
22	11月28日 (3限)	1-A, B 歯科用語から 2, 発表	歯科専門用語の内容を理解して発表する。 コ:A-6-1)-① 国:必修-14-イ-a ~ f	〃
23	12月5日 (2限)	1-A, B 歯科診療の問題点 1	患者からみた歯科医療に対する問題点抽出(KJ法) コ:A-3-①②③ 国:必修-8-イ-a ~ f	〃
24	12月5日 (3限)	1-A, B 歯科診療の問題点 2	患者からみた歯科医療に対する問題点解決法(二次元展開法) コ:A-3-①②③ 国:必修-8-イ-a ~ f	〃
25	12月12日 (2限)	1-A, B 歯科診療の問題点, まとめ	患者からみた歯科医療に対する問題点解決法(まとめ) コ:A-3-①②③ 国:必修-8-イ-a ~ f	〃
26	12月12日 (3限)	1-A, B 歯科診療の問題点, 発表	患者からみた歯科医療に対する問題点解決法(発表) コ:A-3-①②③ 国:必修-8-イ-a ~ f	〃
27	12月19日 (2限)	1-A, B 研究倫理	研究者に求められる研究倫理と研究不正防止の試み コ:A-6-2) 国:必修-17-イ	清浦 有祐
28	12月19日 (3限)	1-A, B 歯科医師のプロフェッショナルリズム	歯科医師としてのプロフェッショナルリズムとホスピタリティを考える。 コ:A-3-①②③ 国:必修-1-イ-a ~ c	瀬川 洋 鈴木 敏城
29	12月20日 (2限)	形成的評価	形成的評価試験を行う。	瀬川 洋 中川 敏浩 鈴木 敏城 唐沢 明 吉田いくよ 鈴木 俊子
30	12月20日 (3限)	形成的評価	形成的評価試験を行う	〃